

# 2026年度フィールドスタディ型 政策協働プログラム

## 岩手県大船渡市

被災地から都市へのフィードバック  
～未来に発生する大災害に備え、あなた自身は  
どう行動するのか～

活動地域

岩手県大船渡市三陸町

(綾里地区・越喜来地区など海業・森林再生の拠点)

# 岩手県大船渡市三陸町



典型的なリアス海岸。深い入江の穏やかな海に恵まれた三陸町（2001年に大船渡市と合併）。豊かな資源を背景に1000軒以上の漁業者が漁を営んでいます。（この地域だけで秋田県全域より多くの漁師がいます）

冬暖かく、夏涼しく、自然に恵まれた地域ですが、過去130年で4回被災という世界でも稀に見る津波常襲地帯です。

例えば三陸町綾里（りょうり）では1896年の明治三陸津波では当時の人口2251人のうち死亡・行方不明は1269人。38.2メートルという日本最大の津波遡上高を記録しました。

こうした度重なる被害にも関わらず、何度も何度も復興し、そのたびに高台移転や防災意識の向上により、「次の津波」の被害を減少させてきました。

という意味では、日本でも最も強靱なレジリエンスをもつ地域の一つといってよいでしょう。



# 大船渡市山林火災



2025年2月に発生した大船渡山林火災。出火からわずか2時間で600ヘクタールが消失しました。（この時点で平成以降最大の山林火災）

火災発生から1時間20分で2114人の避難者が発生し、最終的に市人口の15%が避難者に。

日本の歴史上類例のない大規模なWUI（Wild Urban Interface）火災であり、激甚災害に指定されました。

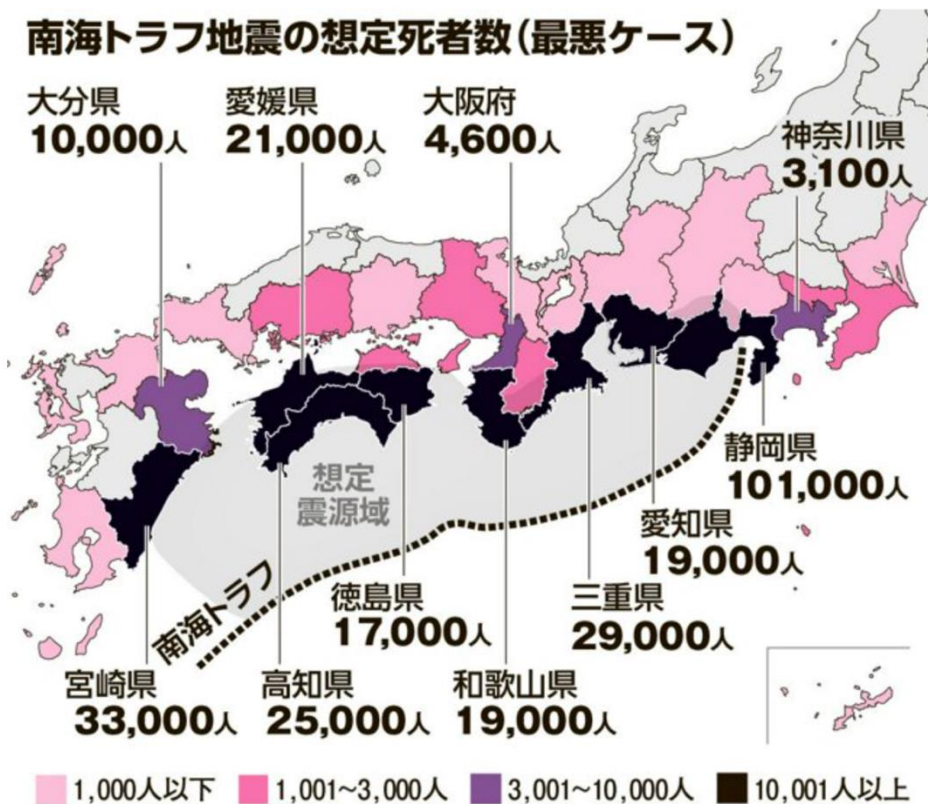
被害額は102億円以上。地域では多くの方が今も仮設住宅で暮らし、漁業・林業中心に被害は甚大です。

一方で、東日本大震災などの経験や教訓をもとに、発災直後から住民自身が主体的に動き、自助・共助による活動を開始。スピーディな避難活動を行い、被害を抑えました。

そして復興への動き出しでも、住民主体の活動は重要な役割を果たしています。

# いつか必ずくる南海トラフ地震や首都直下地震

## 南海トラフ地震の想定死者数(最悪ケース)



南海トラフ地震の想定死者数(最悪ケース)

大船渡市を舞台にしたフィールドスタディのテーマは、「被災地から都市へのフィードバック」。想定死者数29万人といわれる南海トラフ地震など、今後の発生が確実視される大災害をみすえて、参加者自身に、自分自身の防災、そして都市民の意識・行動の変容を考えてもらいたいと思います。

東日本大震災以降、大船渡が培ってきた、レジリエンス、自助・共助のネットワーク、防災ノウハウといったものを学ぶことで、多くのヒントが見つかると思い、このテーマを設定しました。

少しでも3.11の教訓を新たな世代に継承できればと考えています。

大船渡でおきたような、大規模な地震や津波、火災があなたの生活空間でおきたとき、あなたや家族はどう生きのびるのか？

このフィールドスタディが、あなたや家族の命を救うことになるかもしれません。

## 首都直下地震の都内被害想定

|       | 見直し後の想定   | 平成24年の想定  |
|-------|-----------|-----------|
| 最大震度  | 震度7       | 震度7       |
| 死者    | 6148人     | 9641人     |
| 負傷者   | 9万3435人   | 14万7611人  |
| 建物被害  | 19万4431棟  | 30万4300棟  |
| 避難者   | 299万3713人 | 338万5489人 |
| 帰宅困難者 | 452万5949人 | 516万6126人 |
| 耐震化率  | 92%       | 81%       |

# 大船渡移住・定住相談センター「トモヅナ」

このフィールドスタディで中心的役割を果たすのは、大船渡市移住定住センター「トモヅナ」で理事をつとめる、中野圭と阿部正幸、2人の地域プレイヤーです。ともに東日本大震災以来15年間、様々な復興団体や起業を通じて、地域課題の解決に取り組んできました。ともに、漁業と深い関わりを持ち、日々海とむきあって仕事をしています。

中野 圭

NPO高田暮舎 大船渡担当理事



## 中野圭

岩手県大船渡市三陸町越喜来（おきらい）出身の漁師（16代目）で、早稲田大学卒業後、東日本大震災を機にUターン。NPO法人wiz、NPO法人いわて連携復興センターなど、様々な復興団体の理事を務める一方、漁師としても水産品のブランド化や六次化に取り組んできた。



中野圭 紹介記事

阿部正幸

NPO高田暮舎 大船渡担当理事



## 阿部正幸

北海道出身。関西でのシステム会社勤務後、東日本大震災でのボランティアがきっかけで岩手県に移住。NPOとして創業し日本初のIPOを達成した株式会社雨風太陽の創業に参画。2019年に大船渡市綾里地区に移住、2024年に株式会社山海畑を創業。漁業、農業、林業すべてで、現場取材や課題解決に取り組んでいる。



阿部正幸プロフィール

# フィールドスタディでの体験・学び



大船渡でのフィールドスタディは、現地での体験とヒアリングを重視します。参加者には漁業や林業など、地域のなりわいを体験してもらい、「人と自然の関係」「コミュニティ」という地域の根幹を体感してもらいます。

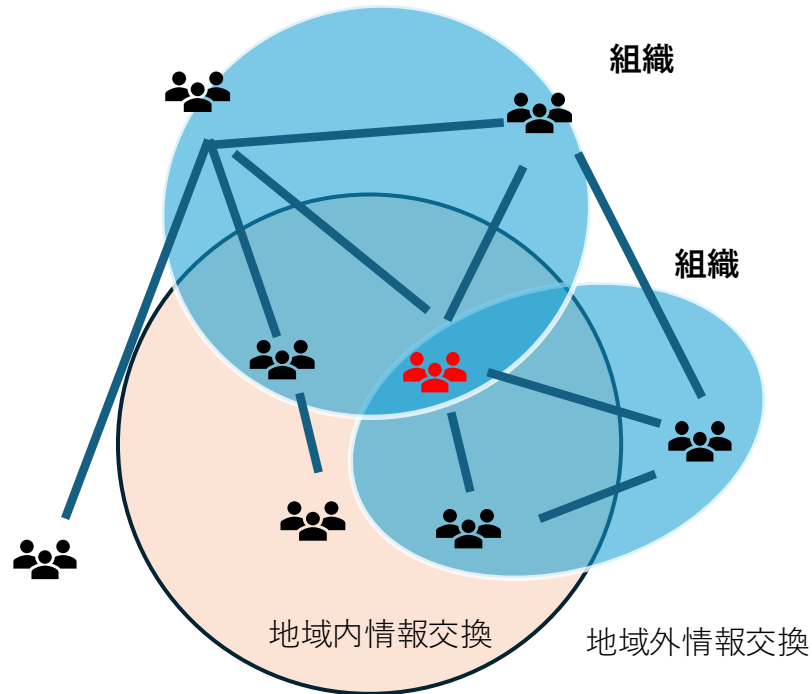
三陸はいま、水温の急上昇という巨大な変化にさらされています。漁業、農業、林業、どれを考えるとときにも気候変動の影響は免れません。地域を学ぶことは地球を学ぶことでもある、それを実感してもらいたいと思います。



そして大船渡市三陸町の住民は、ほとんど全員が東日本大震災を生き抜いたサバイバーでもあります。数々の災害や危機を乗り越えてきた体験談をヒアリングしましょう。

加えて行政職員やNPOなど、復興において「共助」「公助」のハブとなった人材へのヒアリングも行います。

# 関係人口を通じて、都市と地方、双方の課題を考える



**地域内/外、組織間の情報とネットワークを  
接続するノードが、災害時には  
重要な役割をはたす**

東日本大震災後、岩手県の人口は急減しました。しかし復興ボランティアなどを通じて、多くの都市民が岩手の関係人口となり、それまで地域にはなかった人材・ノウハウ・ネットワークが地域に供給され、地域課題解決につながっています。

去年の山林火災でも、関係人口は復興の大きなキーワードになりました。

災害時には、都市と地方をまたいだネットワークが重要で、結節点（ノード）となる人物が非常に重要な役割を果たします。

こうした人材を多く抱えているのが大船渡です。マルチステークホルダー、マルチセクターが重視され始めた今、大船渡で学ぶことは地方課題解決の学びになるだけでなく、都市課題解決のヒントにもなるはずです。

関係人口という意味では、首都圏に住む復興活動経験者や大船渡ファンにも、ぜひヒアリングをしてもらいたいと思います。



**この町で生き続けるための  
"足"を守るために**  
～岩泉町での暮らしを支える交通を考える～



**岩手県岩泉町**

# 岩手県にある「岩泉町」を知っていますか？

【人口】 **7,606人**

【高齢者数と割合】

65歳以上 **3,651人 48.0%**

70歳以上 2,950人 38.8%

75歳以上 2,157人 28.4%

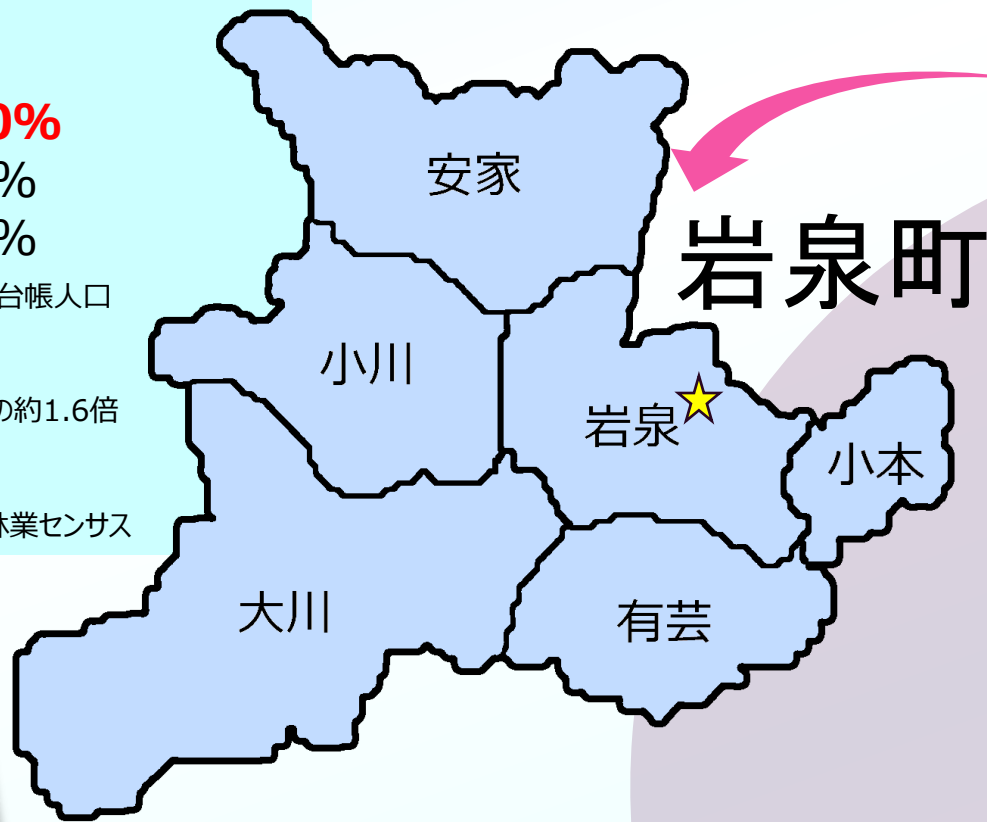
※令和8年2月末の住民基本台帳人口

【面積】 **992.33km<sup>2</sup>**

※香川県の約1/2、東京23区の約1.6倍

【林野率】 92.9%

※2020農林業センサス



岩手県の中の岩泉町



国指定天然記念物・日本三大鍾乳洞  
「龍泉洞」が有名です！（★）

# 岩泉町での生活と課題

1. **病院は岩泉地区に1院**  
(各地域での診療所開設もあるが月数回)
2. **日用品・食料品を販売する店舗数の減少**  
(中心部に集中し、2地域には商店がない)
3. **高齢者特有の課題**  
(免許返納、バス停までの距離、ネットに不慣れ)
4. **高校生の足の確保**  
(町内唯一の高校の存続は町の重要課題)

・とにかく広い！  
・集落が点在！

通院や買い物で他市町村に行くためにも移動が必要

病院、高校、店舗は岩泉地域に集中



## 今、この町の移動はどうなっている？

- 主な移動手段は自家用車、バス、徒歩
- バス路線はあるが、本数が少なく、必要なときに買い物や病院に行けないことがある
- 運行本数減少で学生の保護者の負担も増化
- バス停が遠くて高齢者が歩いていけない、買い物した荷物を抱えて歩くのが大変
- 高齢化と過疎化が進み、移動手段の確保が生活の質に直結する

## なぜ公共交通の再構築が必要？

- 1 生活機能の偏りと孤立化** … 中心部への機能集中と高齢化により、移動手段を失った高齢者の孤立リスクが拡大している。
- 2 リソースの枯渇** … 事業者の担い手不足と自治体の財源難で、増便や路線拡大といった従来型の交通維持が困難になっている。
- 3 広域移動の効率化** … 限られた予算と人員の中で、広い町域の移動利便性をどう確保するかが課題となっている。

**「移動できるかどうか」が、地域に住み続けられるかを左右する時代**  
**地域に合った新しい交通の形を考える必要がある**

## 東大生のみなさんに期待すること

学生の視点が  
まちを支えるヒント  
になります

- 1 岩泉町の交通事情と住民ニーズの現状把握 ← 町の公共交通の実態調査、町民からのニーズの聞き取り
- 2 「移動」×「生活サービス」による付加価値の創出 ← 学生ならではの視点で幅広い視野からの対応策の検討
- 3 具体的経費と費用対効果の提示 ← 実効性と持続性を持たせるため「経費」「財源」「住民負担」を考える
- 4 実効性のある「低コストなIT活用」の模索

# 今後のスケジュール

令和8年度は「岩泉町  
地域公共交通計画」の  
見直しを行います。

| 活動月     | 活動内容                  |
|---------|-----------------------|
| 2026年7月 | 情報収集、調査、オンラインでの活動     |
| 8月      | 現地活動①、調査結果等の整理        |
| 9月      | 現地活動①を踏まえた課題の整理、施策の検討 |
| 10月     | 現地活動②、調査結果と検討内容の共有    |
| 11月     | 現地活動②を踏まえた課題整理、施策検討②  |
| 12月     | オンラインミーティング           |
| 2027年1月 | オンラインミーティング           |
| 2月      | 現地報告会                 |

公共交通に係る庁内ミーティングや研修などの開催時は随時お知らせしますので、都合が合う場合はオンラインでの参加をご検討ください。  
※必須ではありません。

岩泉町の中心部



# 山形県高畠町とは

人口 約21,000人

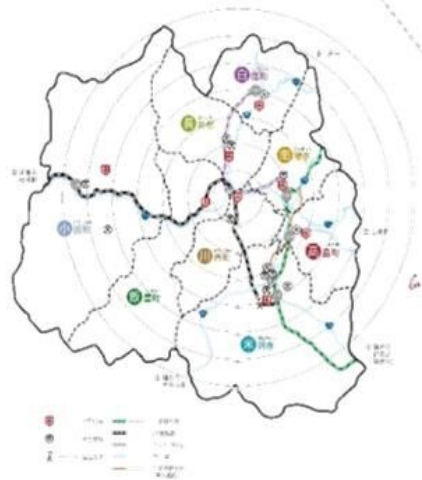
東京駅から新幹線で2時間15分

1973年、近代農業が推奨される時代に地域環境を大切にするため高畠町有機農業研究会を地域の若手農業者が立ち上げた。有機農業の分野では全国でも注目を集め、現在も有機農業水稻栽培面積は山形県内でトップを牽引し続けている。

また、県内でも食品加工業が特出している地域であり、ジャムやドレッシング、ワイン、日本酒などが製造され、全国の百貨店等でも人気のあるものが多い。ここ数年、JR東日本と連携し、海外への販路拡大（輸出）とインバウンド拡大に挑戦している。

近年、町の次世代リーダーを育てる人財育成事業が始まり、県外から住所を異動せずに地域内の学校に転入できるデュアルスクールの導入など、地域内外の人との交流事業が広がっている。

まちづくりは、ひとづくり。面白い人たちが集まり地域を創る。



## 人財育成を軸とした官民協働のまちづくり ～日本一 人を育てるまち～

高畠町は人口減少が進み、2024年に消滅可能性自治体に追加されました。町は行政主導のまちづくりに限界を感じ、町民、企業、行政が協力する新たなアプローチを進めています。「官民協働のまちづくりプラットフォーム」の組織化を見据え、地域課題解決のための起業・創業支援、県外生との交流による小中高連携による町教育の魅力化、子育て支援の3つのプロジェクトを先行的に立ち上げ、官民協働による持続可能なまちづくりを目指しています。

課題  
や現状



解決策や  
アイデア



取組状況  
や成果

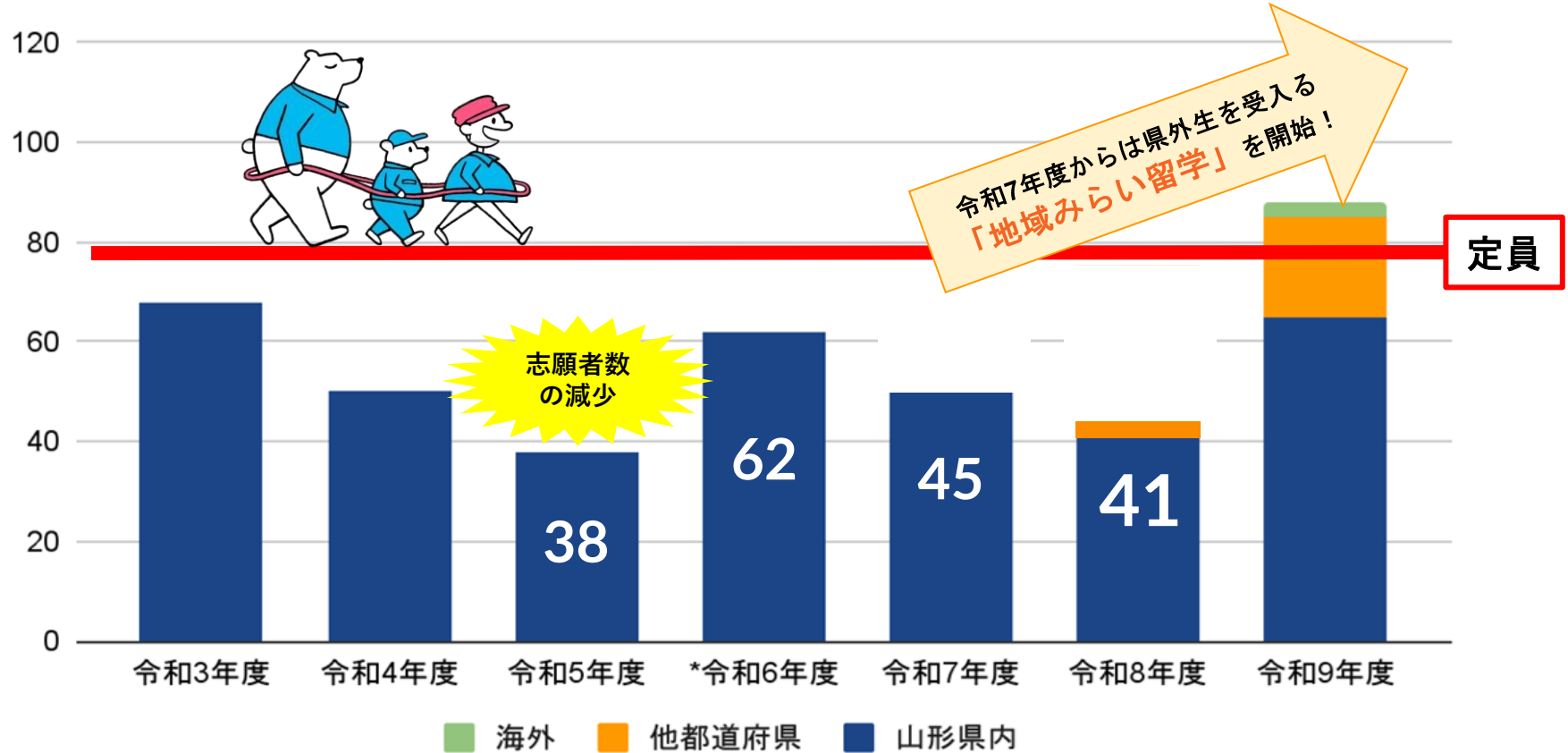
- 複雑化する地域課題。行政依存。情報共有や協働を促す町内規模のプラットフォームがない（取組①）
- 経営者の高齢化、後継者不足、既存の仕組みでは他分野連携が起こりにくい（取組②）
- 地域の魅力を知らずに若者が域外に流出、出生率も年々減少し年間100人を切る（取組③）
- 核家族化が加速し地域内の連携が希薄に。子育てが孤独なものになる危険性が高まる（取組④）

- **行政主導から官民協働のまちづくりへ。プラットフォーム組織化へ。（取組①）**
- **地域社会・産業を牽引する次世代リーダー経営人財の育成事業（取組②）**
- **県外生との交流や大学との連携による高畠町ならではの教育の確立と魅力化（取組③）**
- **地域社会全体で子育てを応援する環境と機運の醸成（取組④）**

- 官民協働のまちづくりプラットフォームの設置により、地域課題・資源の共有化（取組①）
- 町内企業、まちづくりに関わる各団体（商工会、観光協会等）の幹部の若返り化（取組②）
- 地域の魅力の再発見、地域愛の醸成、地方の教育機会較差の解消（取組③）
- 子育て世代を支援するネットワークの構築、子育て世代のライフパフォーマンスの向上（取組④）



# 高畠高校志願者数



県立高畠高校 × 東京大学FS で取り組む課題

## 県外生へ「高畠ならではの学び」の魅力を伝える！



### MAIN MISSION – 主な活動

学び場「はたまる」での  
学習・進路支援（必須）

対象：中学生・高校生

放課後のオンライン交流を通じた学習サポート、大学生活や進路に関する悩み相談。現地訪問時の対面交流企画。

プログラムの中核となるミッションです。

### OPTIONAL MISSION

– 任意・条件付き



「高畠ゼミ」での探究学習支援  
（スケジュールが合う方のみ）

対象：高校生

地域外からの志願者増加を目指す  
PR・SNS発信の伴走支援。

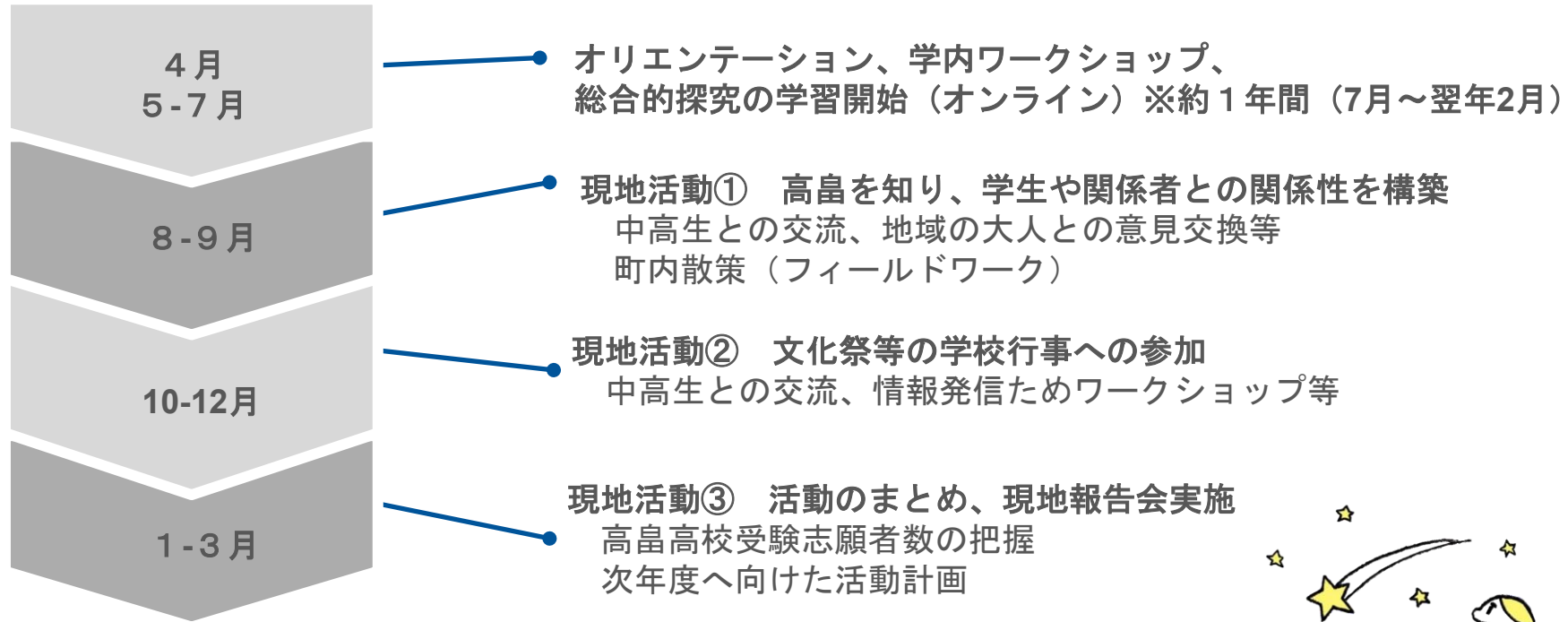
#### 【参加条件】

ゼミの活動時間帯と、自身の大学の空き時間が  
合致する方のみ参加とします。無理な参加は  
求めています。

高畠高校の町内外、県外の志願者数を増やす！



# 2026年度東大FS 事業スケジュール（予定）



※関係者（役場、学校、学生）合同定例MTGは、月1程度で開催  
※関係者間の連絡は、LINEグループやGoogleチャットを使用する



# 関係人口は地域の子育てを支えられるのか

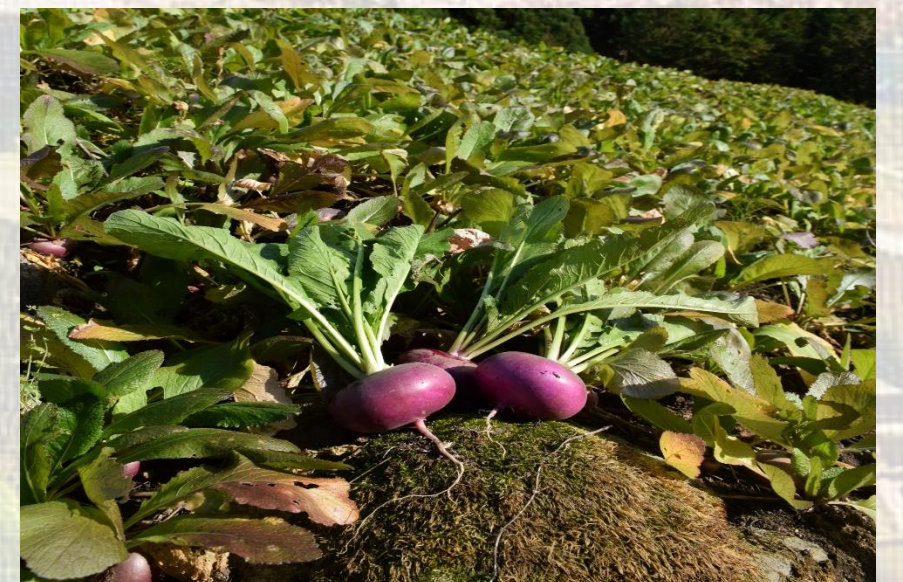
— 温海地域における新たな関係づくりの可能性 —

東京大学フィールドスタディ型  
政策協働プログラム提案書

山形県鶴岡市温海庁舎

# 鶴岡市温海地域（旧温海町）

- ☞ 海・山・川・温泉からなる豊かな自然環境と高品質の農林水産物
  - 400年以上続く伝統的焼畑農法での栽培「焼畑温海かぶ」
  - しなの木の樹皮繊維を糸にする伝統工芸品「羽越しな布」
- ☞ 温海温泉は、開湯1200年の県内有数の温泉地
- ☞ 人口約6,500人の小規模で顔の見えるコミュニティ



# 温海地域の課題

## ▶ 深刻な人口減少

ピーク・・・1960年代の**約20,000人**

現在・・・2026年2月時点で**5,688人**

40年後・・・**約1,000人**規模に...

特に子育て世代の市街地・都市部  
への人口流出が顕著

市街地へのアクセス  
(約30～40km)

生活サービス機能  
の低下

教育関連施設  
の減少



地域の人だけで子育てを支えきれなくなる可能性が高い・・・

# 温海地域での取組

温海地域では地域内外の人が関わりながら子どもを育てる  
取組を行っています。



保育園留学



SEL教育の推進



温海未来塾

# プログラムのテーマ

## 若者（大学生含む）は地域の子育てにどう関わられるのか？

地域の子育て世代 × 関係人口

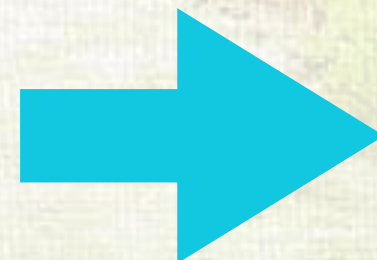


新しい地域コミュニティの  
可能性を探る！

学生に取り組んで欲しいこと

- ・子育て世代へのヒアリング
- ・関係人口へのインタビュー
- ・地域活動や教育環境の調査
- ・他地域の事例研究

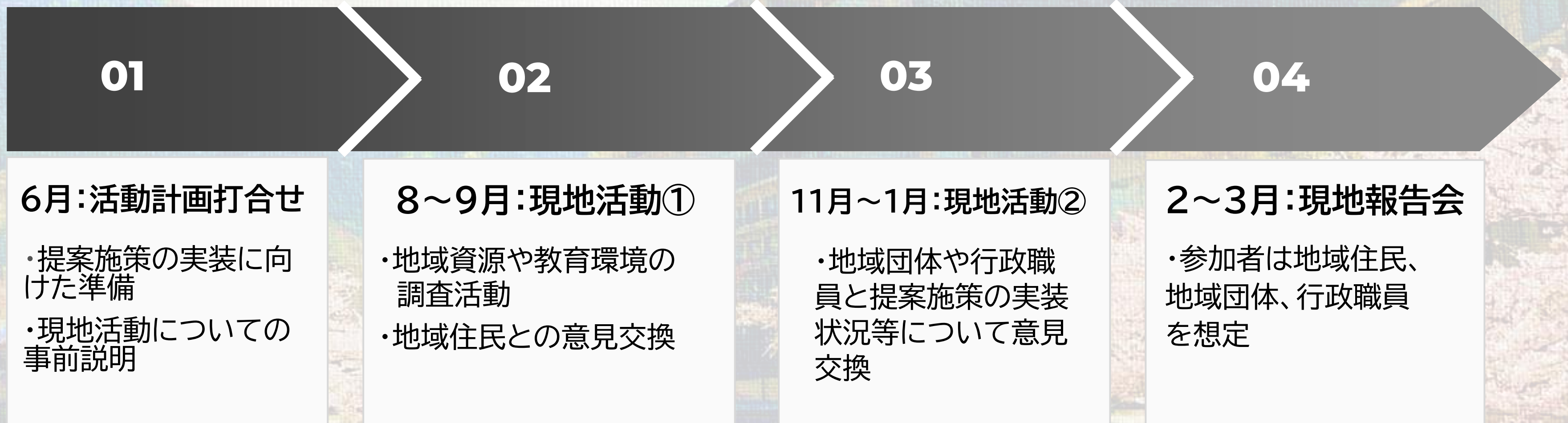
等



## 温海モデルの提案



# スケジュール



目的や優先順位に応じて柔軟に調整しながら、  
皆様を全力でサポートします！

# YOBARUKA × UTokyo

## よばるか 呼賀集落

### 集落概要

- |       |   |
|-------|---|
| ①人口   | 43人（令和8年1月現在）                                     |
| ②世帯数  | 17世帯  |
| ③特徴   | 観音堂、棚田、豪農の古民家                                     |
| ④高齢化率 | 58.1%   |
| ⑤課題   | 集落維持の担い手不足<br>耕作放棄地の増加・交流人口の減少<br>地域絆力の低下・地域文化の消失 |

# 課題：過疎化が引き起こす負の連鎖

## 【Stage 1】人口減少・担い手不足

水路の草刈りや農道補修など、暮らしのライフラインである集落の共同作業（人足）が困難に

## 【Stage 2】景観と安全の崩壊

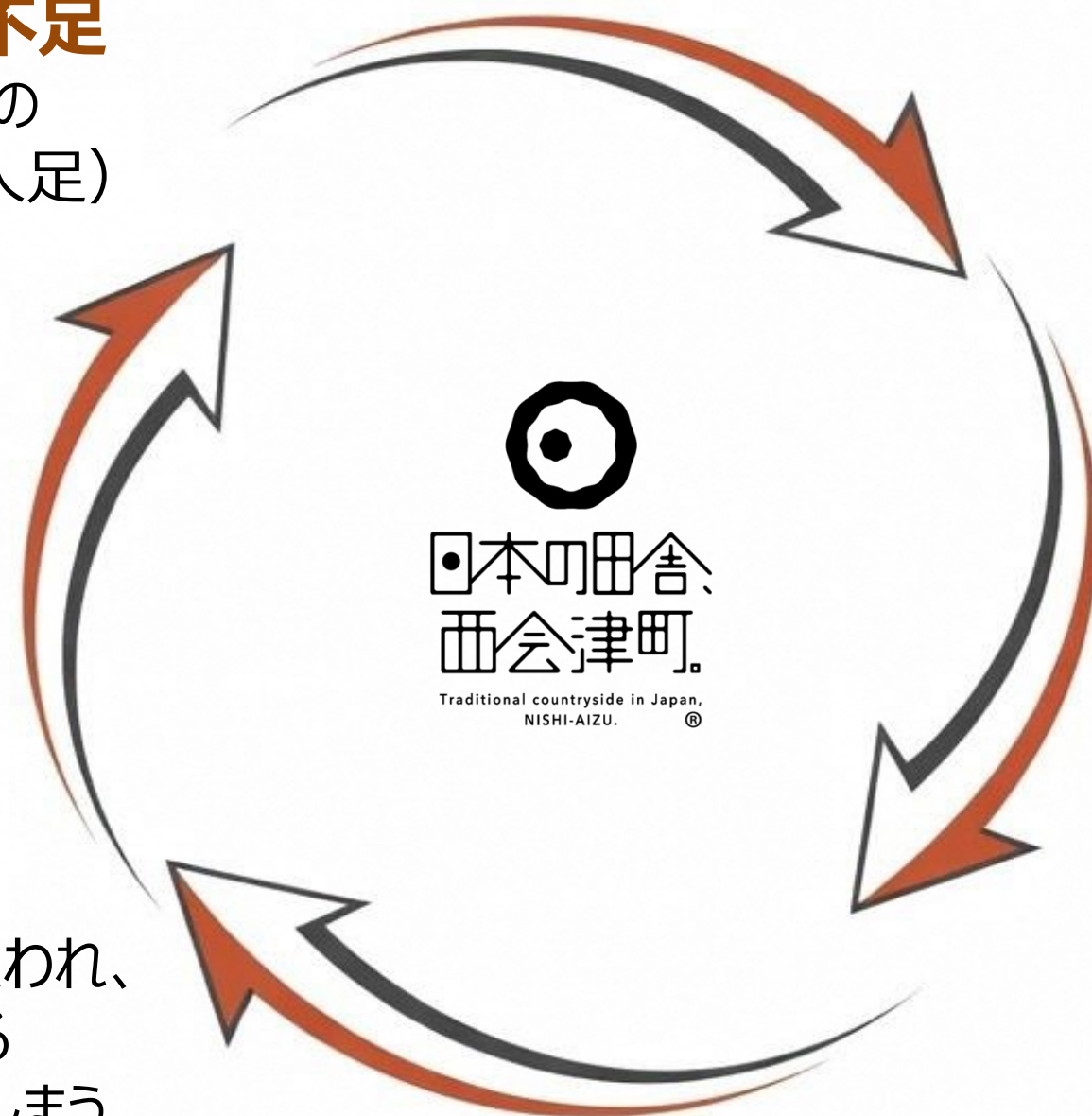
空き家、獣害、倒木、耕作放棄地が増加し、美しい景観が荒れ果てる

## 【Stage 3】暮らしの困難

祭りや行事の中止、文化継承の断絶により、住み続けることが困難になる

## 【Stage 4】心の過疎化

地域に対する誇りや愛着が失われ、さらなる課題の増加へと繋がる  
便利さを求め人が出て行ってしまう



# なぜ、東京大学と協働するのか

課題の裏には、学術的な探求と実践の場として最適な「生きたフィールド」が存在しています



## 地域の期待

学生・教員の知見と  
フィールドワークを活用し、  
地域課題を解決したい  
という強いニーズ



協働による  
課題解決

## 大学の知

地域データ分析・調査支援、  
合同のワークショップの  
企画・運営、  
成果発表・広報支援



# 日本の原風景が息づく場所、 西会津町・呼賀（よばるか）集落。

歴史的建造物：築百数十年の古民家（ごしょうまき）や観音寺

自然環境：四季折々の表情を見せる里山と棚田

地域文化：世代を超えて受け継がれる土地の記憶と知恵



## 新たな地域モデルを創出する3つのコア・テーマ

# 情熱 共創 伝統

単なる過疎対策ではなく、集落住民の意識改革、失われた地域文化の再生、そして歴史的建造物や耕作放棄地を活用した「新たな地域モデルの創造」への挑戦です。





# 持続可能な地域モデルの 構築と未来への展望

単年度で終わらせない「仕組み化」「モデル化」の推進（学生交代制、地域側運営チームの育成）  
他集落への展開とプログラム標準化  
「関係人口」の維持・拡大（定期交流会、滞在プログラム、地域ー学生ネットワークの構築）

プログラムの詳細は東京大学FSプログラムホームページ掲載資料も合わせてご参照ください

# 地域資源を活かしたまちの魅力発信戦略の構築 ～効果的なタウンプロモーションを考える～



棚倉町ゆるキャラ  
「たなちゃん」

## 福島県棚倉町

# 福島県棚倉町とは？

- 人口：12,426人（R8.3.1現在）
- 東京駅から新幹線と路線バスで2時間15分
- 福島・茨城・栃木の三県にまたがる標高1,022mの八溝山を中心とする奥久慈の豊かで美しい自然に恵まれた城下町。江戸時代には、政治・経済・文化の中心、交通の要所として繁栄しました。



## 江戸幕府要衝の地

八槻都々古別神社

棚倉城は江戸幕府の命を受けた、棚倉藩2代藩主・丹羽長重が築城を開始し、8家16代の徳川譜代・親藩大名が城主を務めました。棚倉は常陸（茨城県）と境を接し、奥羽の玄関口に位置する要衝の地であったと考えられています。

また、初代藩主・立花宗茂は、関ヶ原の戦い後、改易され浪人の身分にありましたが、棚倉の領地を与えられ、棚倉の地で大名に復活しました。以後、棚倉藩を経た大名の中には、幕府要職に就く者が多かったことから、棚倉藩は復活・出世の Powerspot とも言われています！



# 棚倉町の観光における特徴

- ◆豊かな自然環境
- ◆豊富な歴史資源・文化資源
- ◆魅力ある特産物



た:なぐら  
ブランド



# 棚倉町の観光振興の取り組み

## 第3期棚倉町まち・ひと・しごと創生総合戦略

- ・既存の地域観光資源のブラッシュアップ
- ・歴まち計画に基づく観光関連施設の整備
- ・観光DXの推進
- ・SNS媒体による効果的な情報発信
- ・タウンプロモーションの推進

## 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム(東大FS)

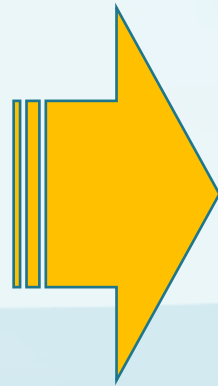
- 【令和6年度】地域観光資源の掘り起こし・磨き上げ(魅力ある観光ルートの構築)
- 【令和7年度】豊かな観光資源を活かしたにぎわい創出

# 東大生の皆さんに期待すること

令和6・7年度の東大FSにおける  
提案内容の検証

SNSを中心とした、まちの魅力発信  
の方法・展開・アイデアの整理

効果的な情報発信・戦略的なタウ  
ンプロモーションの提案



学生の皆さん”なら  
では”の視点を町の  
観光施策に活かす

R6年度の東大FSで提  
案いただいたレンタ  
サイクルを活用した  
観光ルート構築は、  
R7年度に事業化！！

皆さんの積極的な提案・アイデアをお待ちし  
ています！

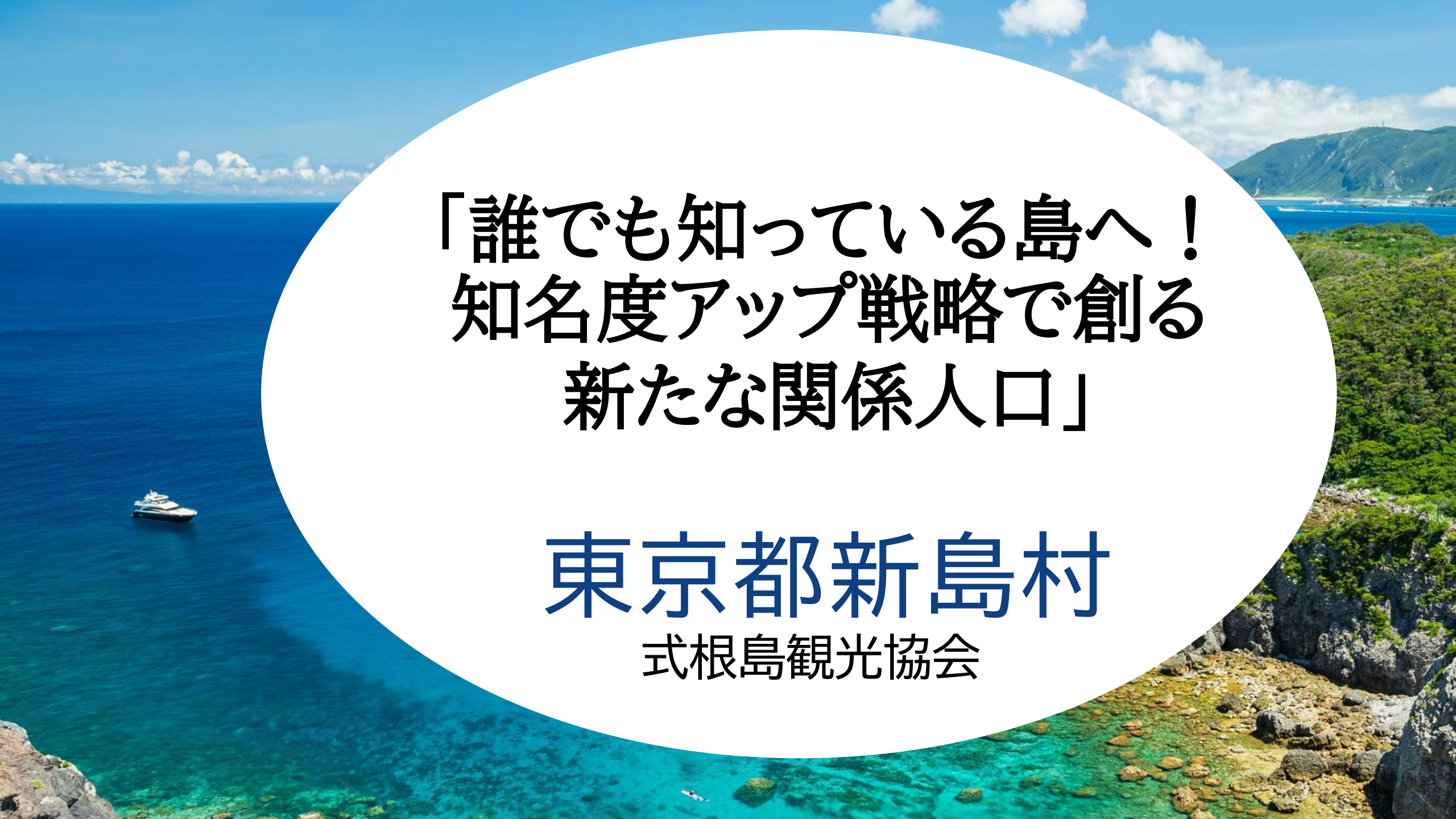
# 実施スケジュール

| R8年<br>5月               | 6月 | 7月   | 8月 | 9月 | 10月  | 11月 | 12月 | R9年<br>1月               | 2月 | 3月                      |
|-------------------------|----|--|----|----|--|-----|-----|-------------------------|----|-------------------------|
| ・活動内容の整理<br>(オンライン・メール) |    | <b>現地活動①</b><br>・観光・施設見学、意見交換<br>・SNSを活用した町のPR動画撮影 |    |    | <b>現地活動②</b><br>・施設の方と意見交換<br>・SNSを活用した町のPR動画の撮影 |     |     | ・活動内容のまとめ<br>・報告会に向けた準備 |    | <b>活動報告会<br/>(棚倉町内)</b> |

※現地活動の実施日等は、学生の皆さんとの調整のうえ、決定します。

※随時、オンライン・メール等で情報共有を行います。



A scenic view of a tropical island with a white boat on the blue ocean and a white oval containing text. The background shows a clear blue sky with scattered white clouds, a lush green island with a rocky coastline, and a small white boat on the deep blue water. The text is centered within a large white oval.

「誰でも知っている島へ！  
知名度アップ戦略で創る  
新たな関係人口」

東京都新島村

式根島観光協会

しきねじま

# ✦ 式根島の課題について

## 式根島課題

- ①知名度の低さ(東京都なのに！)
  - ②人口減少(離島国境に伊豆諸島北部で初めて選ばれる)
- ※2030年問題→人口が300人台へ

### <人口>

- 式根島 約451人
- 新島 本村 約1,630人
- 新島 若郷 約241人

→新島・式根島  
合計約2,322人

2026年2月現在

# 式根島 知名度アップ作戦！

## テーマ1: 式根島の存在を知り、調べてもらうためのきっかけを作る

式根島をまだ知らない方々の観光先に、式根島という選択肢を作ることを目指します。目的に合う施策やターゲットを皆さんで考えて実践し、その効果を検証します。

### (施策の例)

| コンセプト名                   | 施策内容  | ターゲット                  | 効果測定の方法                          |
|--------------------------|---|------------------------|----------------------------------|
| 「外周わずか12kmの島」をフル活用した体験設計 | 外周12kmという「歩き・走り・遊び尽くせる」絶妙なサイズ感を武器に、島全体を一つのフィールドに見立てた独自の周遊・観光スタイルを考案。      | 全国の大学生・アクティブな若年層       | 新規の指名検索数、提案した周遊プランの閲覧・利用数など      |
| 「不便さ・静寂」を価値に変えるPR戦略      | コンビニがない、電波が弱い場所があるといった「都市部の欠点」を、「デジタルデトックス」や「真の休息」という価値に置き換えたPRキャンペーンを展開。 | デジタル疲れを感じている20-30代の社会人 | 広告・投稿の保存数、特設サイトへの流入数など           |
| 「都心から3時間の秘境」視覚化プロジェクト    | 「竹芝から高速船で3時間」というアクセスの良さと、写真で見せる「エメラルドグリーンの海」のギャップを最大化し、認知から来島検討へ繋げる。      | 短期旅行を検討している首都圏の若者      | 「アクセス」ページのクリック率、SNS経由の予約サイト流入数など |
| データ分析に基づくSNS拡散スキームの構築    | 過去のバズ事例やトレンドを分析し、どのような投稿が「式根島」を最も効率的に拡散させるか(タグ、構図、音楽等)を検証し、実際に認知の爆発を起こす。  | SNSを主要な情報源とする若年層       | 投稿のインプレッション数、ハッシュタグの増加数など        |

# 式根島 知名度アップ作戦！

テーマ2: 訪れた人が、島の魅力を拡散してくれるような仕掛けを作る

来島者の方が、式根島の魅力を自発的に拡散してくれるような仕掛けを作ることを目指します。

目的に合う施策やターゲットを皆さんで考えて実践し、その効果を検証します。

(施策の例)

| コンセプト名               | 施策内容  | ターゲット                 | 効果測定の方法                     |
|----------------------|---|-----------------------|-----------------------------|
| 「また来たい」を形にする関係性デザイン  | リピーターが多い理由である「島民との交流」を言語化し、滞在後も島の人と繋がり続けたいとなるような、デジタル上(SNS/LINE等)の仕組みを構築する。 | 繋がりがや温かな繋がりを求める層      | コミュニティ登録者数、リピーターによる紹介来島数    |
| STGS(持続可能な観光)の体験化と発信 | 島の環境保護(STGS)の取り組みを、観光客が「楽しく参加できる」アクションとして設計し、その体験を思わず自慢・発信したくなる仕掛けを作る。      | 環境意識の高い層・SDGsに関心がある学生 | 関連投稿のシェア数、アンケートによる環境意識の変化   |
| 訪問者がアンバサダー化する仕掛けの構築  | 旅の途中で「誰かに教えたい」と思う瞬間を意図的に作り、投稿を促すフォトスポットや、シェアしたくなる「島のお土産話」を学生目線で企画する。        | 自分の体験をSNSで発信する習慣のある層  | 1来島者あたりの平均SNS投稿数、UGC(一般投稿)数 |
| 五感を伝える「非言語」コンテンツ制作   | 写真では伝わらない「波の音、温泉の匂い、風の質感」などをデジタルでアーカイブ化し、滞在の満足度を「体験の深さ」として世の中に伝播させる。        | 質の高い体験価値を重視するこだわり層    | 音声・動画コンテンツの平均視聴時間、保存数       |
| 帰宅後の「ファン・コミュニティ」運営   | 旅が終わった後の「式根島ロス」をケアし、次の来島予約や周囲への推奨行動(クチコミ)に繋げるためのアフターフォロー施策を実装する。            | 一度でも来島したすべてのゲスト       | 再訪率の推移、クチコミサイトの投稿増加数        |

# ★ 今後のスケジュール

| 活動月        | 活動内容             |
|------------|------------------|
| 6月         | オンライン会議          |
| 7月下旬ごろ     | 式根島フィールドワーク      |
| 8月         | オンライン会議          |
| 9月下旬ごろ     | 式根島フィールドワーク      |
| 10月～<br>2月 | オンライン会議<br>現地報告会 |

東大生に期待したいこと

式根島を誰もが知る場所にするためにお知恵をお貸しく下さい！

富山市  
池多地区

” 廃校 を利用した 中山間地域 の 未来づくり ” と

(スモールスタートを切りやすい)

” 地域 に関わる人が 挑戦 しやすい 環境づくり ”

# 富山市 池多地区

## 富山市ってこんなところ!!



### アクセス

東京  
富山

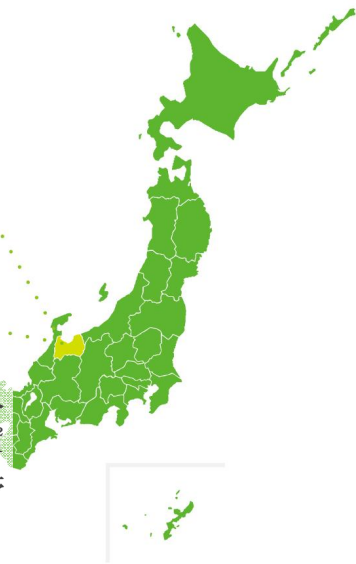
- ✈ 飛行機……約1時間
- 🚄 新幹線……約2時間
- 🛣 高速道路…約4時間半

ここが池多!!

池多は、富山駅から車で約30分ダヨ



ココが富山市!



### 日本酒 づくりも盛んです!

立山連峰の雪解け水と、豊かな米に恵まれた富山。清らかな水と寒冷な気候が、まろやかでキレのある日本酒を育てます。

市内には5つの酒造があります

- 湖寿泉** 越前酒造に酒を輸入伝承する酒造
- 羽根屋** 手酌を惜しまず丁寧に醸す酒
- よしのとも** 純米酒にこだわり富山の米を造り出す酒造
- 福鶴酒造** 八雲の風とともに歩み、伝統を受け継ぎながら、良質な酒を醸す
- 玉旭酒造** 別荘を有する大正時代、浪米を造り出す酒造

### 富山といえば 海鮮



人口：401,797人  
面積：1,241.70km<sup>2</sup>  
世帯数：188,092世帯  
(令和7年10月末現在)

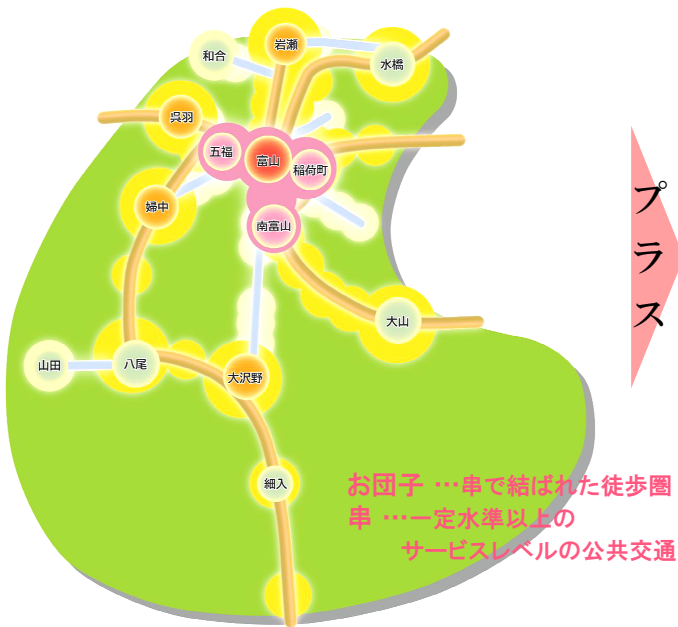
中核市

# 富山市 池多地区

## 富山市のまちづくり・地域づくり

コンパクトなまちづくり

「お団子と串の都市構造」



公共交通の活性化・中心市街地の活性化・居住誘導

生活利便性の確保と人口流出の抑制

豊かな自然・農村環境など**特色**を活かした**地域活性化**

今回は  
**池多地域!!**

水稲



ラバンダー畑



池多牛



牧草



イベントの開催



池多牛



冬の風景



”私たちの地域”は  
”私たちが変えていく”  
地域主体の取組の活発化  
”自助・共助”  
による地域づくり

白鳥が降り立つ田尻池



移住者の獲得・関係人口の創出

# 池多地区の現状

R7.4に「池多地域おこし協議会」を設立！



池多地域おこし協議会に関わる人たち

きっかけ

- ・ **小学校の統廃合**
- ・ 耕作できない農地の増加
- ・ 地域の魅力の低下

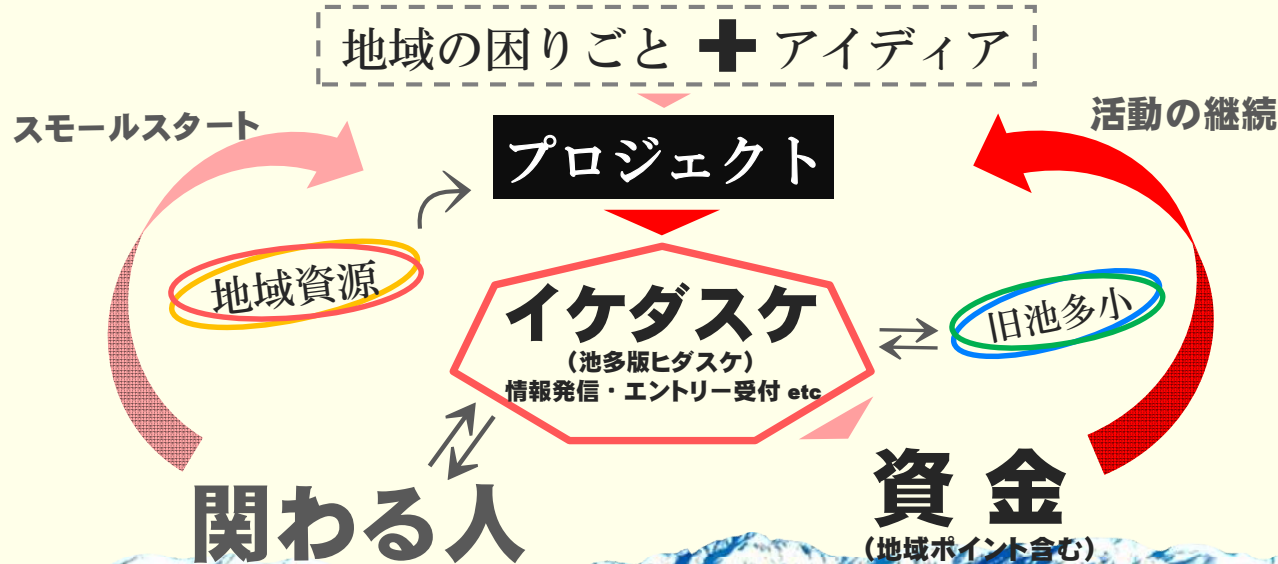
目的

- ・ 移住者・就農者の獲得
- ・ 関係人口の創出
- ・ **故郷を守りたい**

課題

- ・ マンパワー不足
- ・ 資金不足
- ・ **アイデアが欲しい!!**

## 【仕組みを作りたい】



地域ワークショップの様子



池多小学校

# 東大FS型政策協働PGに求めること

1 暮らし・人・風景に触れ、「地域の魅力や価値」を若者の視点で 再編集

強み・らしさ・ストーリー

2 旧池多小学校を起点とした 「挑戦しやすい環境」づくりの 検討

校舎や敷地などの活用アイデア、さまざまな人が挑戦しやすい仕組み

3 地域住民の困りごとを可視化し 「小さな挑戦につながる仕組み」の 提案

イ  
ケ  
ダ  
ス  
ケ

どんな仕組みを仕掛けたら、みんなが活用してくれるかな？  
どうすれば、関わる人、ファンを増やせる？

4 「地域通貨・ポイント」モデルの 検討

地域内循環を促すためには？ ポイント付与・使い方・循環の仕組み

5 魅力を伝える 「短編PV（プロモーション動画）」の 作成

移住・交流フェアや就農フェアなどでも使いたい

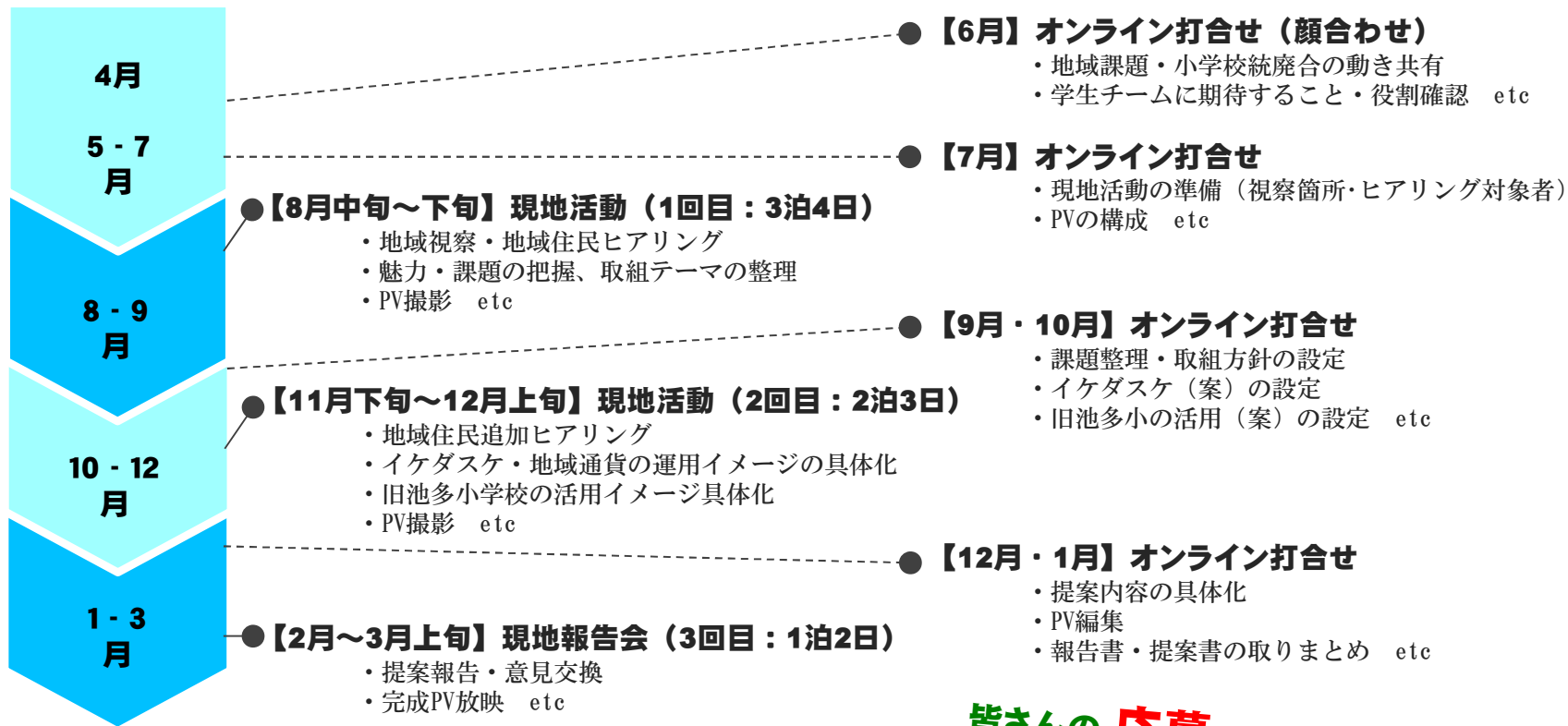
6 「イケダスケのプロジェクト（案）」の 提案

地域の困りごとから実際にイケダスケのプロジェクトを提案してみよう！

こんな環境を作りたい

- ・小さく挑戦、小さく失敗
- ・行動から学び、みんなで成功
- ・**小さな挑戦**と**失敗**と**成功**を繰り返し**学び**ながら、**地域が成長**
- ・資金を得ながら活動を継続
- ・**自走**できる**仕組み**を構築

# 実施スケジュール



皆さんの **応募** おまちしています!!

# 市外県外の方々に響く 能美市の魅力 (ヒト・モノ・コト)は何？



～ふるさと納税制度を活かした能美市PR推進策の提案～

# 石川県 能美市 (のみし)



白山

東

北

南

北陸新幹線

手取川

IRいしかわ鉄道

駅

日本海

西



## 課題・背景

### 【課題】

- ・ 市外県外の方々に響く **能美市の魅力** (ヒト・モノ・コト) は何?!  
～ふるさと納税制度を活かした能美市PR推進策の提案～

### 【背景】

- ・ 人口横ばい (自然減、社会増)
- ・ 2025年2月、能美市誕生20周年
- ・ 国のふるさと納税制度、2016年度から推進
- ・ 市の返礼品は 伝統工芸品 (九谷焼) や お米 が中心
- ・ 2024年度が寄附件数(約9千件)、寄附額(約2億5千万円) ← **過去最高**  
(2025年度は前年度より減少見込)



## 機 会



- ・ **全国**的なふるさと納税寄附件数・寄附金額の**増加**
- ・ **能美市**…「令和6年能登半島地震」関連寄附の**減少**
- ・ **能美市**…ふるさと納税寄附件数・寄附金額の増加をめざし、2026年度から**体制を強化**





# 学生のみなさんに期待すること

【現地活動前】 HP等で能美市、全国、先進自治体の情報・事例を収集・調査

【現地活動】

- ・ 返礼品事業者、市役所職員、地元高校生等へのヒアリング実施
- ・ 地域資源を活かした提案イメージを具体化  
(提案づくりに向けて試行してみたいことがあれば  
チャレンジOK)

【現地活動後】 提案 (短期・中長期) をとりまとめ発表  
(県外在住者視点、「若者」「よそもの」視点、  
大胆な提案も歓迎)



# スケジュール

| 4月             | 5 | 6              | 7 | 8 | 9               | 10                | 11 | 12 | 1 | 2 | 3          | R7~ |
|----------------|---|----------------|---|---|-----------------|-------------------|----|----|---|---|------------|-----|
| ●<br>オリエンテーション |   | ●<br>能美市担当学生決定 |   |   | ●<br>現地調査 (第1回) | 現地調査後<br>まとめ・提案共創 |    |    |   |   | ●<br>現地報告会 |     |
|                |   | 事前学習           |   |   |                 | (現地調査(第2回))       |    |    |   |   |            |     |
|                |   |                |   |   |                 | (首都圏でのイベント参加)     |    |    |   |   |            |     |
|                |   | ★              |   | ★ |                 |                   | ★  | ★  |   |   | ★          |     |

★オンラインミーティング (予定、臨機応変に対応)

福井市 総務部 未来づくり推進局 地域振興課

[ Fukui City Regional Promotion Division ]

住みよさ  
幸福度 日本一

ふくい  
自治会の未来を創る。

R E - D E S I G N F U K U I

# ABOUT FUKUI 福井県福井市について

// 基本データ

- ✓ 県庁所在地
- ✓ 人口25万人
- ✓ 東京-福井 2時間51分

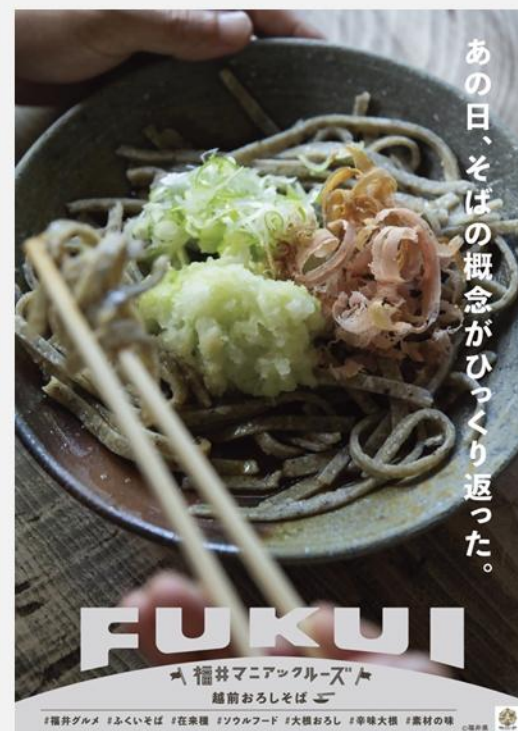
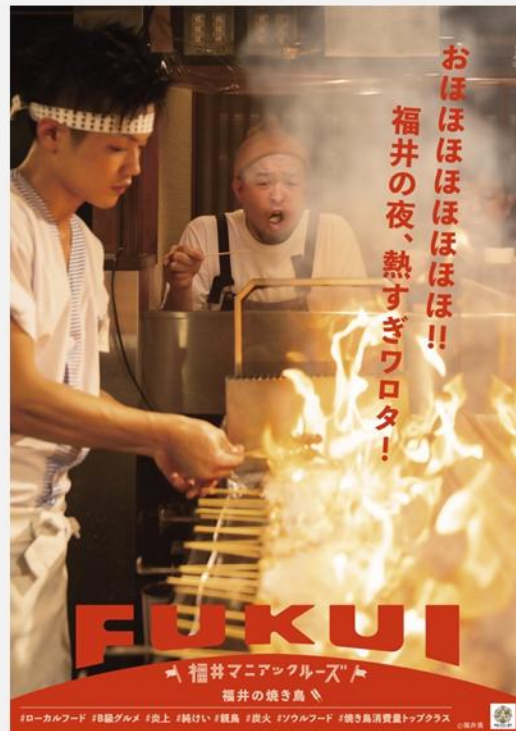


// 食文化

- ✓ 福井県民のソウルフード「やきとりの名門 秋吉」
- ✓ 昭和天皇も愛した「越前おろしそば」

// 住みよさ・幸福度

- ✓ 住みよさランキング2025で全国総合1位
- ✓ 幸福度ランキングで12年連続全国総合1位 (県)



# ABOUT PROJECT 福井市のプロジェクトについて

// 持続可能な自治会とは？

## 課題

自治会の担い手不足、役員の負担増加など

## あるべき姿

若者が自治会、地域活動に参加してくれるためには？  
若者が主体的に参加できる仕組みはないか？  
何を残して、何を手放す？  
中山間地域や新興住宅地域など地域ごとのあるべき姿は？

## アクションプラン

行政がやるべきこと  
自治会がやるべきこと

プロジェクトチームで協議、報告書にまとめる。

報告書は2027年度以降の取組（計画改定、施策創設…）につなげていく。

// お願いしたいこと

プロジェクトチームのメンバーとして加わり、



**アンケート調査・分析**で土台を整える



**フィールドワーク**でふくいの解像度を上げる



部分最適から全体最適を**ワークショップ**で導く

これらを通して、福井市の特色を踏まえた提案をいただきたい。

// メンバー（仮）



# // SCHEDULE

|                          | 6月                 | 7月                 | 8月                              | 9月                  | 10月                 | 11月    | 2月    |
|--------------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|---------------------|---------------------|--------|-------|
|                          | ▼事前学習会<br>▼アンケート調査 | ▼アンケート分析<br>▼意見交換会 | ▼第1回会議<br>↓<br>【翌日】<br>フィールドワーク | ▼第2回会議<br>(ワークショップ) | ▼第3回会議<br>(ワークショップ) | ▼第4回会議 | ▼市長報告 |
| 福井市                      |                    |                    |                                 |                     |                     |        |       |
| 東京大学                     | オンライン              | オンライン              | 現地                              | 現地                  | 現地/オンライン            | オンライン  | 現地    |
| 地元大学・高校                  |                    |                    |                                 |                     |                     |        |       |
| その他メンバー                  |                    |                    |                                 |                     |                     |        | 一部参加  |
| ワークショップ参加者<br>(地域住民、学生等) |                    |                    |                                 |                     |                     |        |       |

# 福井県 越前市 白山(しらやま)地区 × 2026東京大学 フィールドスタディー型政策協働プログラム

周囲を山に囲まれた標高150mほどの自然豊かな里地里山。  
約50年前にしらやまに飛来した1羽のコウノトリと地域住民との交流が、現在のしらやま地区におけるコウノトリを呼び戻すための有機農業と、生物多様性を核とした環境保全活動へと発展しました。

この取組を全国に、そして世界に紹介するため、国連世界観光機関の国際的なプロジェクトである、「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」認定を目指しています。

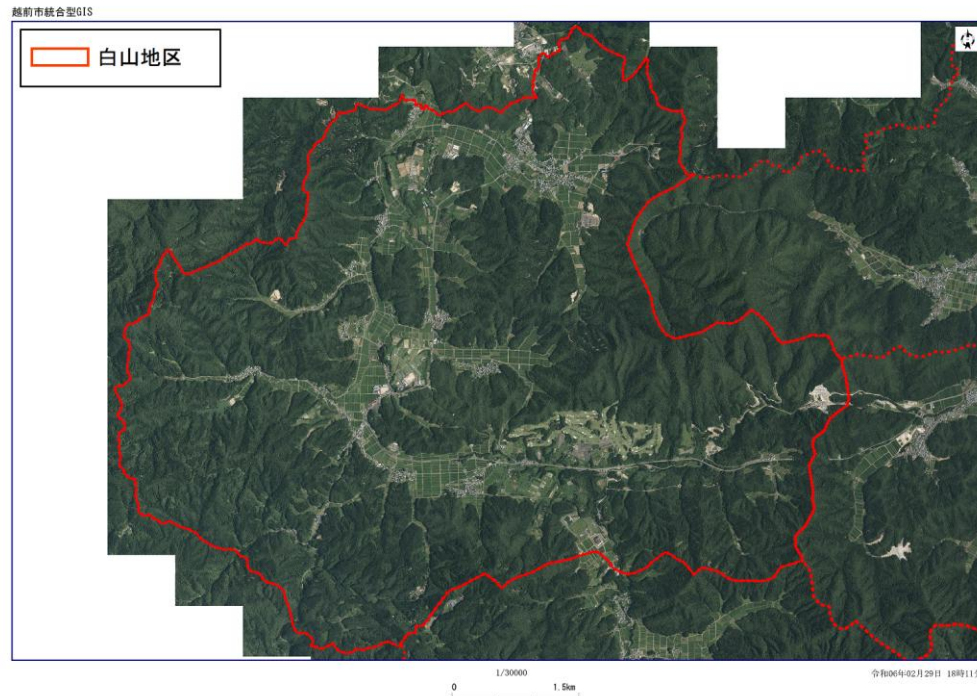
## コウノトリと共生する地域





## BTV認定を目指す越前市白山地区とは

- ・人口約8万人の福井県越前市の西部に位置する中山間地域
- ・人口約1,350人、約520世帯
- ・地域の面積: 36.17km<sup>2</sup>
- ・東京から越前たけふ駅まで新幹線で約3時間→車で約30分
- ・米、しらやま西瓜、大根、ワイン用ぶどう、越前しらやま豚など





## 白山地区の現状とテーマ

### 現状

- ・人口減少、高齢化
- ・地域コミュニティ持続性への不安

### 解決に向けた一手としての「BTV」

- ・2024年 国連 Best Tourism Villagesに申請
- ・2024年10月 次点認定を獲得
- ・2025年 アップグレードプログラムを受講中
- ・2026年6月 再申請、10月末の正式認定を目指す

テーマ：BTV認定を契機とした  
白山地区の「誇り」の見える化と「発信力」強化





## 白山地区の課題

### 課題

- ・地域内で活動する各種団体と地域の連携が十分でない
- ・BTV認定の
  - ・意義
  - ・利点
  - ・将来像が地域住民に十分に共有されていない

「しらやまの魅力」を地域の誇りとして世界に発信する意義を地域の皆さんと分かち合いたい

➡ 学生の皆さんに白山の可能性を“見える化”してほしい





## みなさんに取り組んでいただきたいこと

### I BTV認定に向けた白山地区の域内機運醸成

- ① BTV認定が地域にもたらす価値を  
☞ 住民に「わかりやすく伝える」
- ② 外部からの視点で  
☞ 他のBTV認定地域とは異なる、白山地区ならではの魅力の発見・言語化
- ③ 農・自然・暮らしなど白山を伝える  
☞ 広報動画・発信コンテンツの制作

### II 想定アウトプット

- ・地域住民向けプレゼンテーション
- ・SNS等で活用可能な広報動画→BTV日本連絡協議会等での共有





## この取組によるメリット

### I 学生のみなさんにとってのメリット

- ・国連が推進するSDGsや文化保護施策について学べる
- ・日本の地域政策や国際的な観光戦略がどのように実装されるかを理解できる
- ・関係省庁や国際機関との連携の仕組みを知ることができる
- ・高齢化・過疎化で存続が危ぶまれる地方地域の現状を現場で知ることができる

### II 想定スケジュール

5～6月 オンラインミーティング

白山地区の取組・BTV申請内容などについて共有

8～12月 現地活動(2～3回)

- ・夏祭り、田んぼファンクラブ参加、現地調査
- ・映像撮影、素材収集など

12月～ 広報動画・資料作成


3月 現地報告会

動画お披露目、住民向けプレゼンテーション



# 酒米の田んぼを維持し、日本酒の 売上を伸ばす実装プロジェクト

酒米づくりと日本酒による地域の持続

 三重県南伊勢町 道行竈区

# 地域の概要

## 【南伊勢町】

平成17年に南勢町と南島町が合併

人口・・・ **10,039人**

高齢化率・・・ **54.5%**

主な産業・・・水産業（漁獲量は三重県**No.1**）  
農林業（**温州みかん**、柑橘類等）



伊勢志摩国立公園内の鶴倉園地

## 【道行竈（みちゆくがま）区】

人口・・・ **32人（23世帯）**（令和8年2月末現在）

高齢化率・・・ **65.6%**（令和8年2月末現在）

主な産業・・・ **水稻を中心**とした農業集落

源平合戦のころ、平家の落人が入植したものの、先住者によって既に漁業権が握られていたため、塩竈を造り塩を焼き、わずかな耕地を開いて自活したという「平家落人伝説」が伝わる「南島八力竈」（なんとうはっかかま）の一つ



道行竈の田んぼ



道行竈の入り江

# 地域の現状と課題

- 人口減少、高齡化による**耕作放棄地の増加**
- 担い手不足による**関係人口拡大**の必要性



- **日本酒プロジェクト**始動
- 地域住民の有志による**「チーム道行竈」**の結成
- 道行竈の酒造りが始まる



- 東大FS参加学生の受け入れ（2019年から過去4回受け入れ）
- JUON NETWORK「田畑の楽校」（農業ボランティアの実施）による田んぼの石拾いのボランティア受け入れ・集落散策等
- 大阪eco動物海洋専門学校・地元小学生との塩竈浜クリーンアップ（伊勢度会ロータリークラブ主催）

イベント自体は継続できても、参加者との交流は一回限りになりがち

関係性を大事にしつつ、プロジェクトの継続に繋げる取り組みが必要

# これまでの活動

2018年 日本酒プロジェクト始動



2019年 純米大吟醸「道行竈」完成



2020年 チーム道行竈を法人化



2025年 東大FSの活動



今年も五月祭に  
道行竈が出展予定！

## 【東大生に期待したいこと】

### ■ 「田んぼの維持(守る)」と「酒を売る(続ける)」を実装でつなぐこと

①～③のいずれかのテーマ+共通テーマ（テーマ④）を選択

- ・ テーマ①草刈り・石拾い等、人手が必要な農作業に地域外の人を楽しんで参加できるプランづくり
- ・ テーマ②日本酒を売れる仕組みを現地で作る(販売/体験の小さな実装)
- ・ テーマ③地域外の協力者が参加可能な参加設計(募集・受入・継続参加の仕組み)の整備・道行竈のファン作り



共通テーマ

テーマ④「東大FS×日本酒×限界集落」提案内容の継続のための仕組みづくり

# 具体的なプログラム

| 活動月    | 活動内容   |
|--------|--|
| 6月～    | 顔合わせ（オンライン）月1～2回程度                                   |
| 8月～9月  | まち歩きを通じた、日本酒プロジェクト・道行竈の歴史・竈方文化の学習 地域住民との交流（現地活動 候補①） |
| 9月～12月 | 課題解決のための企画・実装に関するMTG、準備・実施                           |
| 12月中旬  | 新酒の販売準備(現地活動 候補②)                                    |
| 2月上旬   | 課題解決のための企画・実装(現地活動 候補③)                              |
| 3月上旬   | 道行竈にて現地報告会   |

※現地活動日：①～③のうち、いずれか2つを学生の皆さんと打ち合わせで決定

# 「田根ホームカミングデイ」の定着

田根に関わった大学生との  
継続可能なつながりの創出



滋賀県 長浜市 田根地区



# これまでの田根と大学の歩み

2007年 **慶應義塾大学** 小林研究会との交流

**マサチューセッツ工科大 (MIT)** 神田ゼミとの交流

2011年 **同志社大学** So Hubとの交流

2021年 **東京大学** フィールドスタディ型政策協働プログラム

2022年 **専修大学** フィールドワーク

2023年 **早稲田大学** 地域連携ワークショップ

**京都橘大学** クロスオーバー型課題解決プロジェクト

2024年 **立正大学** 経済フィールドワーク、地域発展委員会

**人間環境大** デイサービスとの連携

2025年 **早稲田大学** 地域連携スタディツアー



交流会 田根・坐・ガーデン



田根でくつろぐMIT生



大昼食会

# 大学との交流を如何に継続するか

大学の  
プログラム  
終了

交流が終わる  
タイミング

大学生の  
卒業

教授の  
退官

# みなさんに望むもの 交流を終わらせない仕組みづくり



- 2024年 発案 「ホームカミングデイ」 提案
- ↓
- 2025年 具体化 「ホームカミングデイ」 実証
- ↓
- 2026年 定着 「ホームカミングデイ」 継続

※ ホームカミングデイとは、田根地区に関わったことのある大学生が、田根地区に集い、地域住民も交えて交流する「同窓会」のようなもの

# 地域が期待すること

## ★ 人口減少は止められない

それでも地域は元気でありたい

だから、大学生やOB・OGとの交流を続けたい

## ★ 関係人口の創出が必要

「ホームカミングデイ」は有力な手段

可能ならホームステイも活用しつつ



# 地域が期待すること

## ★ 関係人口の創出

「コウノトリ」、住んでないけど、  
出会えばウキウキ、子どもも大喜び。  
田根にとって大切な「関係人口」。

コウノトリのように出会うだけで心が弾む存在。  
そんな大学生やOB・OGとの交流を希望。

田根にはたくさん  
のコウノトリ  
が飛来します



域内周遊促進による観光消費額増加を目指す  
国指定史跡を核とした地域一帯の歴史文化資産有効活用推進プロジェクト

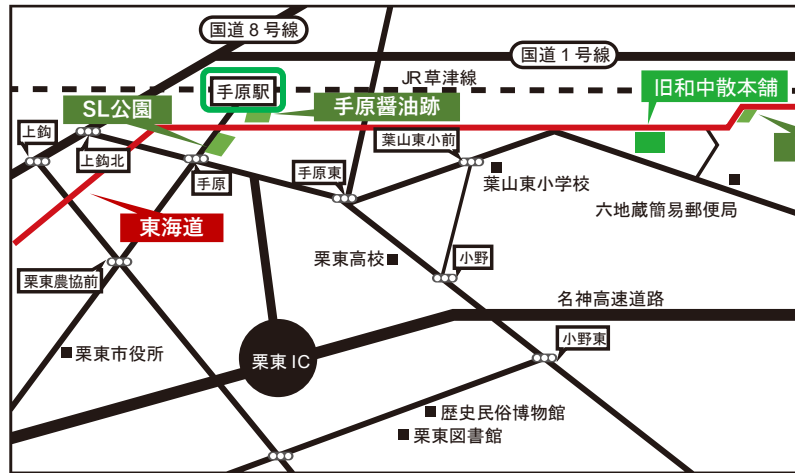


国指定史跡「旧和中散本舗」外観

滋賀県栗東市六地藏および手原周辺 一般社団法人栗東市観光協会

# 滋賀県栗東市六地蔵および手原周辺

栗東は古代から中山道と東海道の通る交通の要衝でした。江戸時代には東海道と中山道が通る交通の大動脈であったことから、人や物、文化が行きかい、まじわり、にぎわいました。なめし 東海道の目川立場、梅ノ木立場は、石部宿から草津宿の間にあり、間の宿として旅人の休息・憩いの場となりました。道中薬の和中散は当地の名物として広く知られ、梅ノ木立場には和中散を販売する店が軒を連ねました。その一つ、旧和中散本舗大角家住宅は往時のままだまに残されています。大角家住宅は大名たちが休息する小休み本陣も兼ねました。目川立場では菜でん飯田がく楽が旅人を癒し、名物として、『東海道名所図会』に描かれました。（栗東市文化財保存活用地域計画より）



国指定史跡前の東海道



千人彫りで作成された「ぜさい」看板



JR草津線手原駅

## 栗東市

70,311



人口（栗東市統計より2025年3月1日時点より）

44.05%



森林割合（栗東市森林整備計画2023年4月より）

1.65



自家用車台数（栗東市地域公共交通計画2024年5月より）

2,312



JRA栗東トレーニング・センター競走馬収容可能数（公式ホームページより）



滋賀県

提供元: Bing  
© GeoNames, Microsoft, Zenrin



東海道を挟んで馬繋ぎ小屋がある

# 国指定史跡概要

## ■ 国指指定史跡「旧和中散本舗」

- 国指定名勝「大角家庭園」
- 重要文化財「大角家住宅」
- 機械遺産「人車製薬機(木製動輪)」

旧和中散本舗の所在する栗東市六地蔵は古くは梅木村(うめのきむら)といい、東海道の草津宿と石部宿の中間にあって、古来より間の宿として栄えてきたところです。現在の建物は、寛永年間(1624～)に建てられたもので、昭和29(1954)年3月に国指定重要文化財の指定を受けました。製薬場には木製動輪の直径4メートルにも及ぶ大きな車輪が残っています。令和5(2023)年機械遺産に認定されました。(機械遺産第119号)



小休み本陣玄関の医脚門



小休み本陣上段の間



「わちゅうさん」看板



上段の間から庭園を眺める



人車製薬機1/8模型



上、右；機械遺産認定の人車製薬機



# 春と秋の特別公開

予約制でしか見学できない旧和中散本舗ですが、春と秋の季節限定で大角家と観光協会により特別に公開しています。

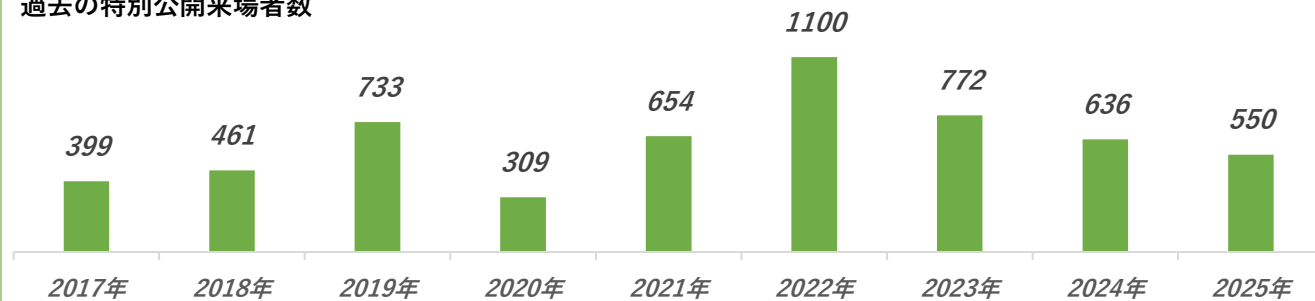
春には、国指定の名勝である庭園にカキツバタやサツキが美しく咲き誇り、例年多くの方が歴史に思いをはせながらその美しさを楽しまれています。

公開日は、栗東市ボランティア観光ガイドが語り部として館内をご案内するとともに、

「栗東あられ」や「たてば珈琲」を販売しています。

平成29（2017）年までは、NPO法人により実施されていたが、観光協会が事業を引き継ぎ、現在も実施しています。

過去の特別公開来場者数



たてば珈琲と栗東あられ



特別公開時の様子



大角氏庭園

国指定史跡  
旧和中散本舗  
国指定名勝  
大角家庭園

## 特別公開

公開日  
2026年9月  
19日(土)～23日(水・祝)  
開館時間 10:00～16:00  
(最終受付 15:30)  
入館料 大人 500円  
小人 200円

わらわえ  
うも書斎 松野 彰

東海道沿いにあり、家康公の腹痛を治した薬「和中散」で全国にその名を知られるように。また、「同の宿」として公家や大名などのお休み本陣としても栄えました。現遺は、大角家住宅は国指定重要文化財、庭園は国指定名勝に指定されています。

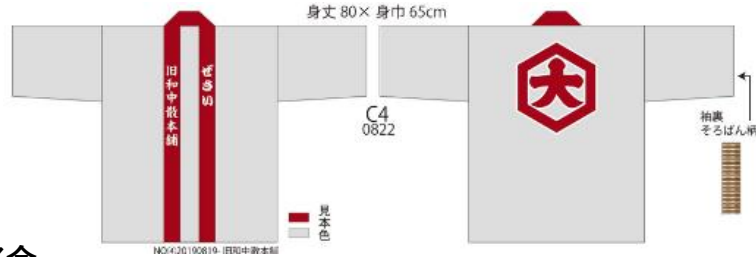
本元家梅木村元祖

# 国指定史跡および周辺での関連する取り組み



## 手原SL同好会

元国鉄OB、鉄道好き仲間により設立。毎月1回清掃を実施し、鉄道の日にあわせてイベント開催。



## 旧和中散本舗 ぜさいや法被制作



## 旧和中散本舗での書道パフォーマンスおよび百人一首の舞イベント開催



1994

2009

2017

2019

2020

2023

## 手孕み饅頭

伝承をもとに手原繁栄会が創作。



## 近江歴史回廊推進協議会

琵琶湖周辺の歴史文化資源をつなぐことを目的に設立。

## 手原駅マルシェの開催



## NPO法人街道を活かしたまちづくりの会

栗東市内を通る街道で観光振興、地域の再生、次世代への継承を目的に設立。旧和中散本舗の定期開場を実施。

## たてば珈琲屋台開始

特別公開に合わせて珈琲（ハンドドリップ）の販売を実施。



## びわ湖のひな人形めぐり開催

県内他市町との連携でひな人形展を開催。



# 現状と目指すべき姿

## ■ さまざまな取り組みを進めてはいますが…

- 歴史ある建築物等、担い手不足により空き家が増加している
- 取り組む主体や域内での連携不足
- 旧和中散本舗の公開等事業が域内の観光消費額に結びついていない
- 高齢化や担い手不足により団体の地域活動の継続が困難になってきている

このままでは…  **地域がどんどん疲弊し、貴重な文化資産や歴史・伝統が潰れてしまいます…**

**目指すべき姿** 持続的な地域経済の発展、地域の活性化、地域間の相互理解促進、リっとうブランド向上を実現することにより、栗東市の未来をより豊かに、元気に、明るくすること。

### 期待する役割

市内外の関係者と連携し、公正性・透明性を保ち、自然資源の活用、歴史文化の継承、地域社会との共生を通じた、栗東市の持続可能な観光振興を推進する斬新な企画を期待します。

### 企画の柱

- 歴史や伝統文化の継承
- 地域社会との共生
- 栗東ブランドの形成



貴重な文化資産を後世によりよく伝えるべく、公開事業に限らない利活用法の提案を期待しています。

# 里山集落の持続可能性と その現代的価値の再発見

和歌山県那智勝浦町 色川地域

色川地域振興推進委員会

## 中山間に位置する里山集落



平家の落人伝説が残り1000年の歴史を有する。

明治22年、10ヶ村をもって色川村。昭和30年、大合併にて那智勝浦町となる。

鉱山が栄た頃には人口が3,000人程。鉱山の閉鎖以降人口減少、高齢化が進む。

休耕田の増加や山林の荒廃が進み、「むらの消滅」への危機感が高まっていく。

## 移住者を受け入れ半世紀

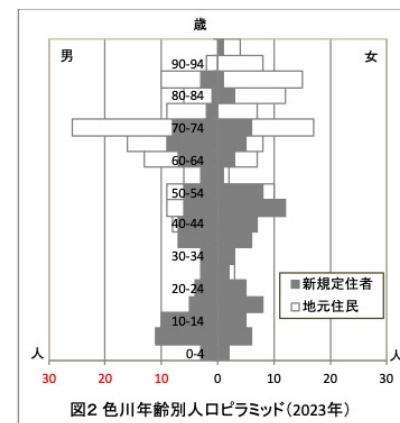
1975年有機農業を志す移住希望者の訪問

2年間にわたる住民有志が話し合いを重ね

保守的な農村で実現した「よそ者」の受け入れ

住民の計り知れない苦勞と努力

## 異質なもののへの理解と寛容性



移住者の割合が6割を超える。

## ▼ 先祖代々で繋がってきた暮らしの厚み

「海を見たことがない。」積み重ねられた暮らしの存在

- ▶ 集落に生まれ集落で暮らし集落で一生を終えた人たち

そして、里山とともに暮らしてきた人々

- ▶ 先人たちが山を切り開き築き上げてきた棚田、その周辺に広がる里山
- ▶ 大木が林立する奥山、そしてその山を縫うように流れる大小の川



## ▼ これからの地域運営のあり方を模索

「いつもおおきによ」の挨拶

- ▶ 周囲から隔絶された色川地域は、人の繋がりこそが地域活力の源泉
- ▶ 自然と発せられる「おおきによ」の挨拶に、地域らしさの一端を感じる
- ▶ 「よそ者」を受け入れ、先人たちが繋ぎ、守ろうとした「らしさ」とは
- ▶ 地元住民の多くが75歳の高齢者となり、現役世代のほとんどが移住者
- ▶ 今までと同様の「地域運営」が可能かどうか問われ始めている

## ▼ 2つの課題

### 積み重ねられた厚みのある暮らしが変容

地域の先行きが不透明

1



#### 里山集落の持続可能性

日本全体で2019年までの4年間で164集落が消滅した。

農地保全、鳥獣害、学校存続など、地域の課題は様々  
濃い人の繋がりの中、長年の「地域自治」の歴史がある  
社会の変遷とともに暮らしが様変わりしてきた

地域運営のあり方

地域らしさの継承

2



#### 里山集落の現代的価値の再発見

経済的合理性とは違う「価値観」との出会い

閉塞感や分断、貧富の格差、生きづらさを感じる社会  
「地域社会」という存在の希薄化に伴う様々な弊害  
里山集落が元来持ち合わせていた役割や機能

不便は豊かである

助け合い暮らし合う

非合理的な時間

# ▼ 都会とはまた別の「地域」があるということ

## ぜひ現場の生の声を聞いてほしい

先祖代々暮らしを繋いできた人たち

地域らしさを繋ごうと足掻く人

都会から移り住み、ここを居場所と決めた人

観る

聴く

感じる



Mission



里山集落の現代的価値を再発見し、持続可能な地域運営のあり方を提案

里山集落の実情について、広く若者の間で情報発信を展開

日本中で、先祖代々暮らしを繋いできた里山集落が消滅していく中

「諦めない」集落が一つでも増える一助になることを期待する。

# スケジュール

平日、週末問わず年中受け入れが可能。遠方のため最低1回あたり2泊3日は滞在を理想とする

schedule

- 2026年6月 参加学生との顔合わせ、活動計画等打ち合わせ(オンライン)
- 7月 活動計画等調整(メール等)
- 8月 現地活動(1回目)、盆踊りや寺の行事(8月12日~14日)
- 9月 草刈り作業など住民と共同作業も可能
- 10月 現地活動(1回目)の振り返り(オンライン)
- 11月 現地活動(2回目)の事前打ち合わせ(オンライン)
- 12月 現地活動(2回目)、運動会(10月下旬)や宮祭り(11月)
- 2027年1月 など行事への参加も可能
- 2月 現地活動(2回目)の振り返り(オンライン)
- 3月 報告会(現地)、住民参加型ワークショップ開催等

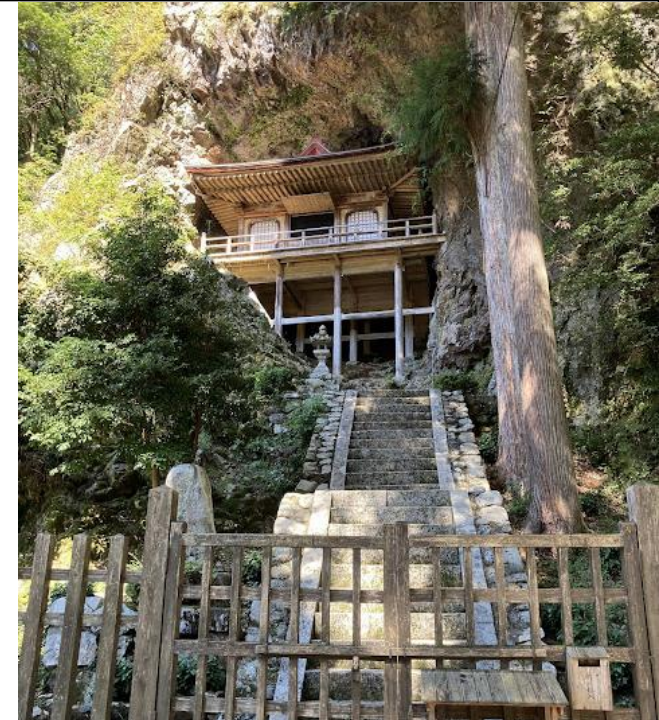


色川地域振興推進委員会が主体となり、  
地域に連携して学生を受け入れる予定

鳥取県  
若桜町  
WAKASA

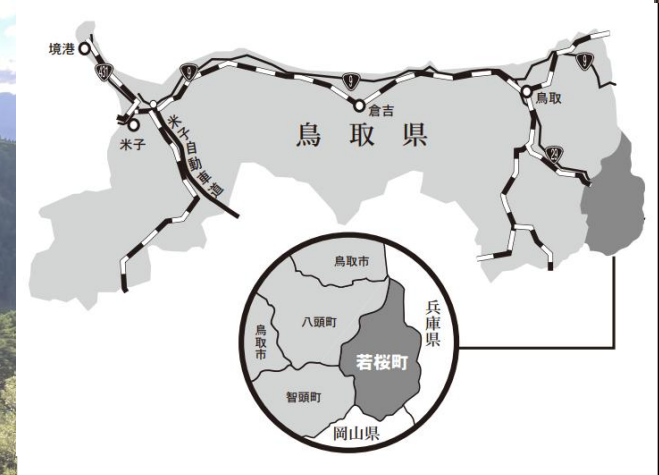


面積:199.18km  
森林面積割合:95%  
集落数:39



東大の入学者数  
より少ない

人口:約2,500人  
高齢化率:50%以上  
町立小中一貫校:1  
町立こども園:1



アクセス:  
鳥取空港から車で約50分  
大阪からJR等で約3時間10分



# 若桜町の歴史・文化・自然資源

- ・とんかつ新
- ・ジビエ料理(6店舗)
- ・鯉料理
- ・さば天うどん
- ・焼きさば寿司
- ・吉川そば
- ・吉川豚・加工品
- ・弁天まんじゅう
- ・和菓子、おやき
- ・弁天娘(日本酒)
- ・日本茶
- ・コーヒー
- ・えごま
- ・若桜米
- ・天然酵母味噌
- ・広留野大根

- ・鉄道運転体験
- ・林業体験
- ・街歩きガイド
- ・スキー／スノボ
- ・キャンプ
- ・登山
- ・釣り
- ・バードウォッチング
- ・シャワークライミング
- ・木工(木地師)
- ・鹿革加工
- ・土鈴作り
- ・鍛冶
- ・そば打ち
- ・日本酒造り
- ・味噌作り

食  
場  
体  
祭

- ・若桜駅(国有形文化財)
- ・SL、DL、客車
- ・カリヤ通り(重伝建)
- ・蔵通り
- ・鬼ヶ城跡(国史跡)
- ・江嶋神社
- ・若桜神社
- ・不動院岩屋堂(国重要文化財)
- ・ゆはら温泉
- ・道の駅若桜
- ・民芸館
- ・昭和おもちゃ館
- ・三百田氏住宅
- ・氷ノ山
- ・響の森
- ・脊米の棚田
- ・滝
- ・平家隠棲の洞窟

- ・岩屋堂大祭
- ・春色まつり
- ・若桜神社大祭
- ・氷ノ山夏山開き
- ・納涼花火大会
- ・清流祭り
- ・弁天大祭
- ・鬼っ子祭り
- ・吉川収穫祭
- ・スキー場開き
- ・西日本雪合戦大会
- ・そば祭り
- ・麒麟獅子舞



## 若桜町の観光まちづくりの目指す方向性

- 現在の年間来訪者数は約28万人(町の推計)
- 町と観光協会、町内事業者が連携し、特産品開発やイベントの実施、デジタルスタンプラリー、伝統的建造物等の修理・修景、観光客の二次交通の確保等に取り組んできた。
- 現在は、古民家を活用した分散型ホテルの開業を検討中。宿泊施設の不足をカバーし、観光客の滞在時間を延ばすことで、地域にお金が落ちる観光産業を目指している。



←グリーンスローモビリティ

観光まちづくりセミナーと  
住民ワークショップ→



今は観光まちづくりの**大きな転換期**！  
滞在中に若桜を満喫できるような体験メニューの開発・磨き上げを進めたい



# FS in若桜町のテーマ

## 若桜町の歴史・自然資源を活かした非日常体験メニュー開発

<活動イメージ>

事前学習  
若桜の歴史・文化・自然  
についてレクチャー

現地活動①  
まち歩きや自然アクティビティ体験  
観光事業者・住民等との意見交換

3泊4日

現地活動②  
提案内容を試行・試作  
観光客等からフィードバック

2泊3日

現地発表会  
町内関係者、住民向けに発表  
意見交換

### 求めるゴール

- 若桜町に宿泊する方々(ターゲットの設定は自由)が満足する”非日常体験メニュー”案を町に対して提案する。
- インバウンド旅行客の増加に伴い、案内板や各種掲示等の改善に関する提案も歓迎。
- 情報発信の不足も課題であり、SNS等を活用した情報発信策についての提案も歓迎。

※定期的にオンライン打合せ予定。コミュニケーションツールの利用も検討中。



## 学生の皆さんに期待すること

- ◇提案だけではなく、実際に試してみる・作ってみる姿勢を大歓迎
- ◇課題の解決のみを目的とせず、若桜町での“非日常”を楽しんで、若桜のファンになってもらいたい！
- ◇過疎のリアルと、小さくても輝く自治体・住民の姿を知ってほしい

### 上川元張 若桜町長からのメッセージ

若桜町では「お金の稼げる観光」への転換に向けて、古民家分散型ホテルの検討やまちづくりマスタープランの策定を進めています。  
観光まちづくりの転換期に、学生の皆さんの自由な発想をお聞きしたいと思います。  
皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。





私たちが皆さんの活動をサポートします！

若桜町役場、鳥取県庁、若桜町観光協会ほか町内関係団体

御協力:NPO法人bankup 中川玄洋代表理事

鳥取大学地域学部地域創造コース 筒井一伸教授

FS in若桜町では、NPO法人bankupと連携し、鳥取大学の学生若干名も同日程で参加する予定です。  
鳥取大学の学生と協働して、課題に取り組んでいただきます。



年間60万人の観光客が訪れるのに

なぜ、この町には「お金」も「持続」も足りないのか？



ココ

**地域DATA** 島根県大田市三瓶町志学

世帯数 220戸

人口 437人

小中学校の建物は一つ、児童数は全部で23人

主な産業 稲作 畜産 観光業

大山隠岐国立公園

三瓶温泉

昭和にはスキー客などで大いに賑わっていた

世界遺産 石見銀山から20分



# —これまでのまちづくりの動き—

少子高齢化に対応、効率化

## 志学まちづくり協議会の立ち上げ

自治会組織を取り込み  
新たなまちづくりスタート

地位活性化 四季のイベント

三瓶さくら祭り



ふうりんおんせん



蕎麦祭り



雪あかり



課題 担い手不足 資金不足 少子高齢化は止まらない

さらに課題解決に向け

## 未来会議の開催

「10年後の志学ってどうなってるの？」真剣に考える場  
地域計画を作成（人口のキープ）



### 3つの柱



1 つながりと魅力を作る



2 定住と交流を作る



3 仕事と収入を作る

### 6つの事業立ち上げ



相乗りタクシー



高齢者通いの場



学校・学童



空き家



特産品



温泉

# 三瓶そばによる町の活性化

さんべ在来種の「三瓶そば」を利用

地域の文化であった蕎麦の文化を伝える

蕎麦打ち体験を商品化

本気で取り組むため **R7 4月に法人化** 新たな挑戦がスタート

小さな商い・女性の活躍の場・文化継承につなげたい

来るだけの場所から 関わり続けられる場所へ

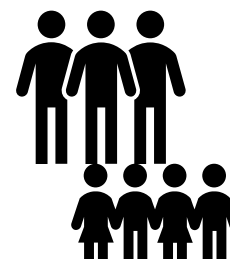
志学地域の可能性を高める



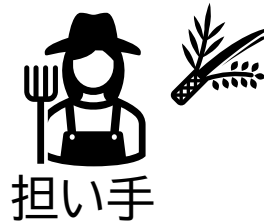
# 学生に期待すること

仮説を立て実際に活動

地域活動や体験型観光などの地域資源を生かした持続可能な仕組みづくりに向け仮説検証まで行う



地域

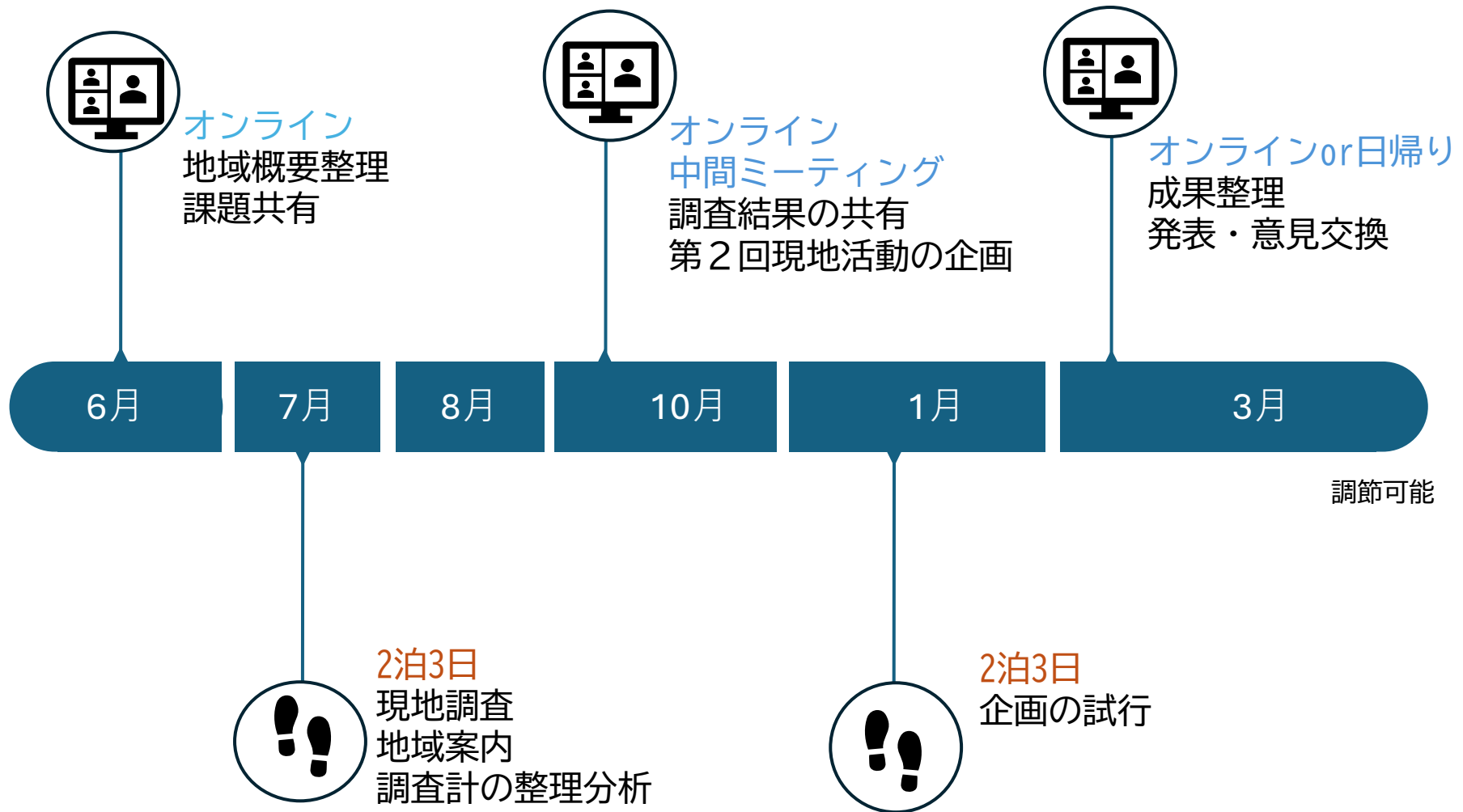


担い手



地域外

# スケジュール



一緒に「続く仕組み」を作ませんか。



# 坂出オレンジ プロジェクト

認知症共生社会の実現  
--支える・支えられるの  
『壁』を壊せ--

坂出市 × 東京大学



# 坂出市の課題

--四国の玄関口が直面する  
「超高齢社会」のリアル--

- 01 人口は約5万人
- 02 日常生活圏域は5圏域（チームオレンジも5か所）
- 03 高齢化率は約35%
- 04 認知症相談窓口の認知度は25%
- 05 物盗られ妄想/徘徊の相談件数の増加
- 06 認知症のかたが活躍できる場が少ない



# 坂出市の目的地

認知症になっても「やりたいこと」ができ  
役割をもって暮らせる街

--支える・支えられるの関係性を超えた  
お互いに支え合う共生社会の実現を目指す--

- 01 チームオレンジ活動の持続・活性化
- 02 認知症の普及啓発活動

学生の皆さんのクリエイティブな視点で  
街全体のアップデートを期待



# チームオレンジ × 5 圏域

A圏域



B圏域



C圏域



D圏域



E圏域



# チームオレンジ × 東大生 × 園児(5歳児)



Sakaide  
Orange  
Project



## 今後のロードマップ（昨年度の学生からの提案）

短期

### （チームオレンジ）

活動の持続化、活性化に向けて様々なアクターとコラボしたイベントを開催



中長期

「チームオレンジ×〇〇」の組み合わせを増やし、つながりを恒常化  
認知症サポーターの増加、認知症高齢者や男性の参加増

### （地域社会：教育）

小学校で先行的に認知症の普及啓発教育や調査を実施し、教育プログラムをブラッシュアップ



小学校での実績を積み、中高に展開。さらに教育委員会と協働しつつ、坂出市ならではの段階的な認知症教育プログラムを策定、現場で実践

あなたの視点が  
坂出の未来を変える

坂出市 × 東京大学

東京大学フィールドスタディー型  
政策協働プログラム提案

# 中山間地域の課題等の 解決に向けて

～ 地方の強みを生かした、  
移住したくなる魅力的な仕掛けづくり ～



# 1. 鹿島市の概要

人口は2.7万人

東は有明海、南は多良山系に囲まれた自然豊かなまち

— 高速道路  
— JR  
— 新幹線

博多 福岡IC 福岡空港  
鳥栖 JCT  
新鳥栖  
久留米  
佐賀  
佐賀空港  
鹿島市  
多良  
有明海  
嬉野温泉  
嬉野IC  
嬉野温泉  
新大村  
長崎空港  
大村IC  
大村  
諫早  
諫早IC  
長崎  
長崎

伊万里  
武雄北方IC  
武雄温泉  
佐世保  
ハウステンボス  
新玉名

長崎 長崎

みかん

有明海の海苔

祐徳稻荷神社

有明海の干潟

肥前浜宿 酒蔵通り

車で50分

## 2. いいだ ななまがり 飯田七曲地区の課題

飯田七曲地区は標高300mに位置する中山間地域



- **過疎化** (人口減少、少子高齢化)  
⇒ 約20世帯のうち 高齢者世帯がほとんど
- 農業 (特に果樹園) の **担い手不足**  
⇒ 後継者がいない農家が半数以上
- **耕作放棄地** や空き家の増加  
⇒ 厳しい耕作条件、山あいの生活環境



### 3. 現在の取組状況

地区の厳しい現状はあるものの…

ロケーションの素晴らしさに惹かれた**若い移住者**がいる！



地区住民と移住者が一緒になって地域づくり！

- ✓ 耕作放棄地を蕎麦畑へ
- ✓ 6次産業化に結び付けて高収益化
- ✓ 移住促進、農泊・インバウンド誘致
- ✓ “みかんの木オーナー制度”で移住促進と高収益化



## 4. 提案いただきたいこと

先に挙げた現在の「**自発の地域づくり**」(※)を更に加速させるため、**地区住民とアイデアを出して協働してもらいたい!**

※地域が自ら考え行動し、トライ&エラーを繰り返しながら、地域資源を磨き上げる取組

### 【アイデア出し・協働の例】

- 耕作放棄地の解消に向けて、**移住したくなる魅力的な仕掛けづくり**
- 六次産業化による**一次産業の高収益化**をきっかけとした**後継者の発掘・育成**
- 地域イベントの**活性化及び発展形態の模索**
- 市の農産物加工研究施設の**活用方法**



加工研究施設 “みちしるべ”



かかしまつり



## 5. 提案いただきたいこと ～提案方法の選択～

### 令和7年度の施策提案

04 施策提案

地域資源を教材化する  
**「鹿島のみかんの木オーナー制度」**  
学校教育を起点とした持続可能な6次産業化

単なる収穫体験にとどまらず、数年単位での学校主体の「みかんの木の所有」により地域への愛着と継続的な関わりを醸成します。



04 施策提案

みかんの木オーナー制度を用いた校外学習のフロー例

テーマ設定 → 情報収集・分析 → 調査・実験 → 発表・表現

- ・SDGs(環境・食料問題) ・鹿島の現状・ニーズ
- ・鹿島の近接性・課題の ・(可能であれば) JA
- 多様性を生かしたテーマ や漁協等の協力のもと
- 設定 と、出前授業のような
- そもそものニーズは? 形で

・収穫/加工体験

・日常の手入れは農家さんが行う

・加工施設としてみちしるべの利用も

→費用や訪問回数が課題点

・地元の方からのFB

・レポートを書く機会にも

・長期的・継続的にできるからこそ…

・自分たちのものとして愛着をもてる

・行政からの視点では、郷土愛を誘う教育を民間に委託できるという意義がある

- 長期的な視点では移住促進につながる可能性

利点



### 提案方法①

#### 令和7年度の提案を深掘り!

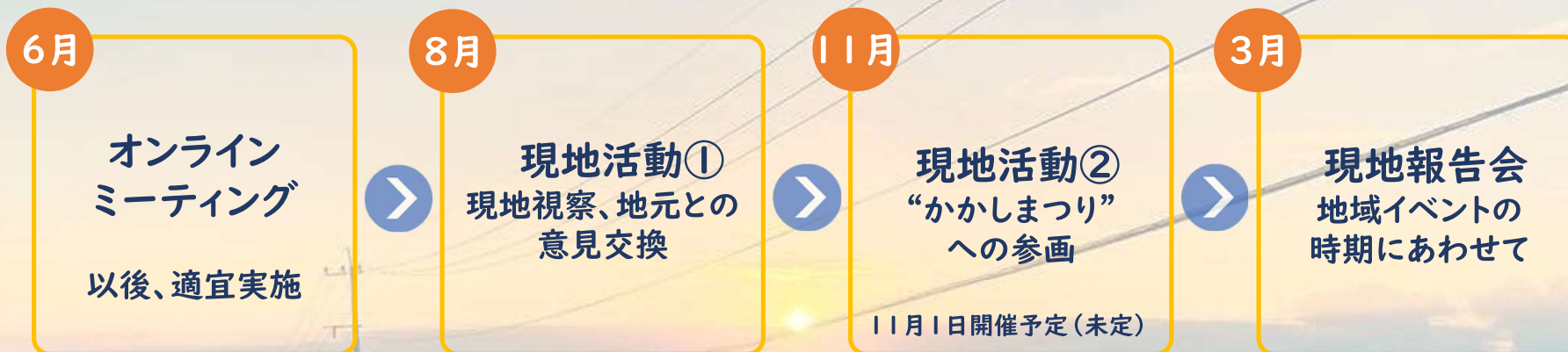
- ・教育委員会との調整
- ・出前事業者の発掘 など

### 提案方法②

#### 令和7年度とは違う新しい提案!

- ・地域の現状把握
- ・課題の設定
- ・課題解決方法の検討
- ・仮説・提案 など

## 6. スケジュール案 (令和8年度)



※参加学生の皆様と調整しながら進めていきます。

ぜひ、鹿島へお越しく下さい!  
一緒に地域を輝かせましょう!

# 宇久未来プロジェクト ～高校生交流と離島学びの魅力発信～



長崎県 佐世保市宇久行政センター 産業建設課

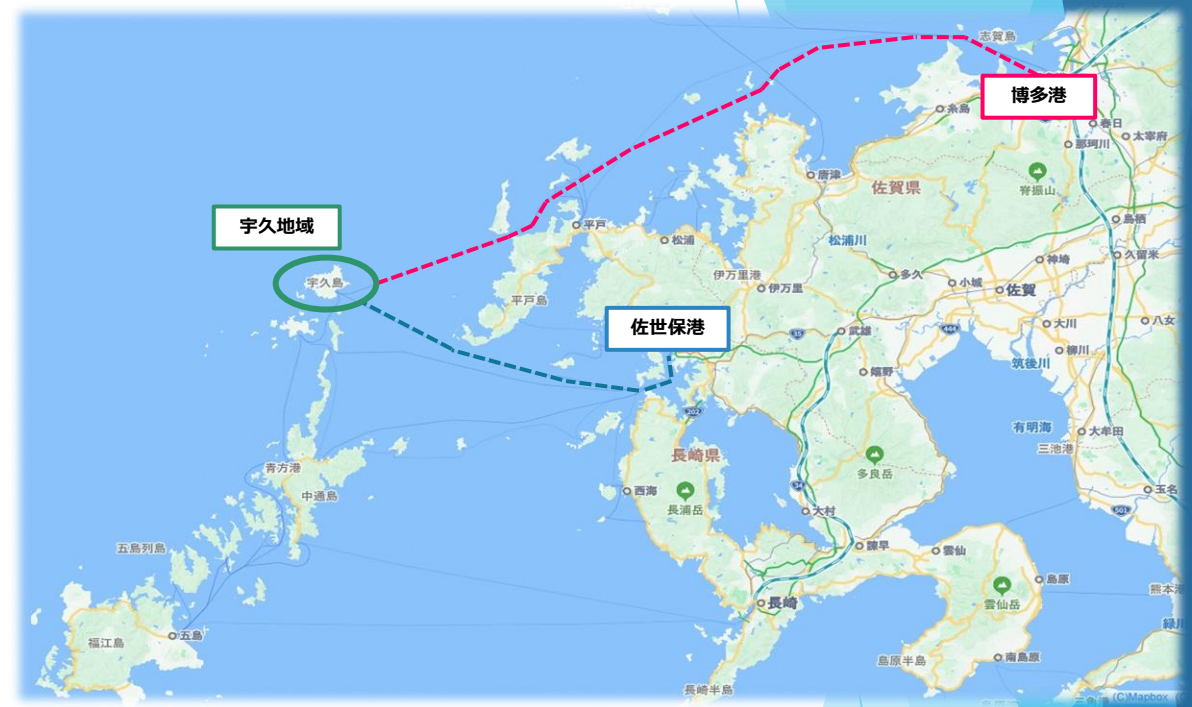
## ▶ ① 宇久地域の概要

面積 約26.3km<sup>2</sup>

人口 1,686人 (R8.2.28時点)

平均年齢 63.9歳

- 佐世保港から高速船で約1時間半、博多港からフェリーで約4時間と、本土からのアクセス良
- 畜産業（繁殖牛）が盛んなほか、宇久ならではの生活が体験できる民泊を活かした観光や、ワーケーション（試験的導入）による移住定住の取組みを推進
- 西海国立公園の美しい自然と五島家の始まり、捕鯨・海士などの歴史ロマンあふれる島



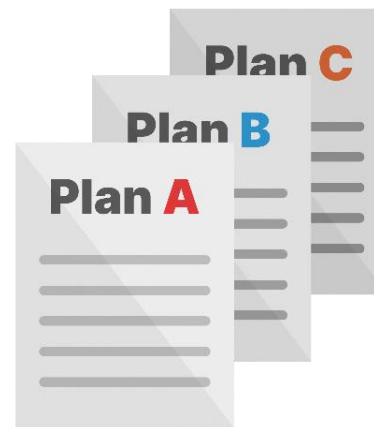
## ▶ ②地域の現状

- ・平成18年に佐世保市と合併後、15年間で4割を超える人口が減少
- ・高校の生徒数は15人以下となり、高齢化は58%まで上昇し、**限界集落**となっている

持続可能なまちづくりに取り組むために！

- ・官民学協働で行動計画を策定  
(『宇久島未来まちづくりプラン』)

- ・令和8年度より宇久高校離島留学制度開始



ワークショップの様子



長崎県立宇久高等学校

## ▶ ③ 取組み課題

### 高校生交流と離島学びの魅力発信

#### 【その1】

#### 地元高校生との交流による 将来ビジョンの醸成

- ・島の高校生が描く『なりたい自分』に向けた助言や提案
- ・将来も島と関わりを持ち続けるためのビジョンの醸成



## ▶ ③ 取組み課題

### 高校生交流と離島学びの魅力発信

#### 【その2】 離島留学に係る受け入れ地域の 魅力情報発信

- 既存のコンテンツや新たなものを活用し、受け入れ地域である宇久島の魅力や離島留学、しまで学ぶ魅力の発信に協力



## ▶ ④活動のスケジュール

| 時期     | 内容            |
|--------|---------------|
| 6月     | WEB打ち合わせ      |
| 6月～7月  | 学内で課題解決策の検討①  |
| 7月～8月  | WEB打ち合わせ      |
| 8月～11月 | 宇久島での現地活動（3回） |
| 12月～1月 | 学内で課題解決策の検討②  |
| 3月     | WEBによる報告会     |

# 五島市の消費電力100%再生可能エネルギー化を目指す

～再エネ先進地・五島で挑む、エネルギーコスト域内循環への道～

## 【課題先進地・五島市での挑戦】

再エネは「作る」だけでは脱炭素にならない。日本が直面する壁に、五島市が先陣を切って挑みます



## 五島市の現状と課題

### 【強み】

- 洋上風力・太陽光など再エネ導入が急拡大。五島市内の電力需要量の85%に相当する再エネ発電量

### 【壁】

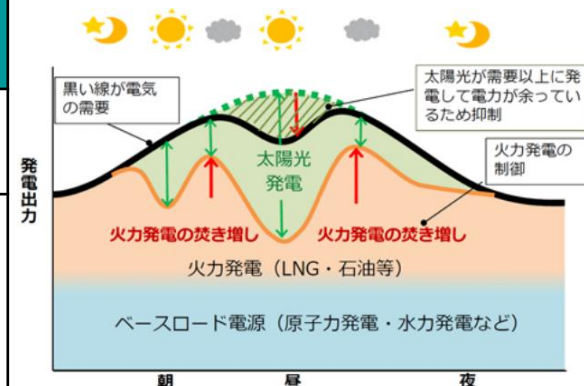
- 離島特有の送電容量の制約により、せっかく作った再エネ電力を捨てざるを得ない「出力制御」の懸念

### 【結論】

- 発電量の増加だけでなく、地域での「消費のタイミング」を合わせる仕組みが急務



| 出力制御の類型    | 対象範囲              |
|------------|-------------------|
| 需給バランス制約起因 | 各一般送配電事業者エリアの全発電所 |
| 送電容量制約起因   | 送電混雑が発生する系統内の発電所  |



# 五島市の消費電力100%再生可能エネルギー化を目指す

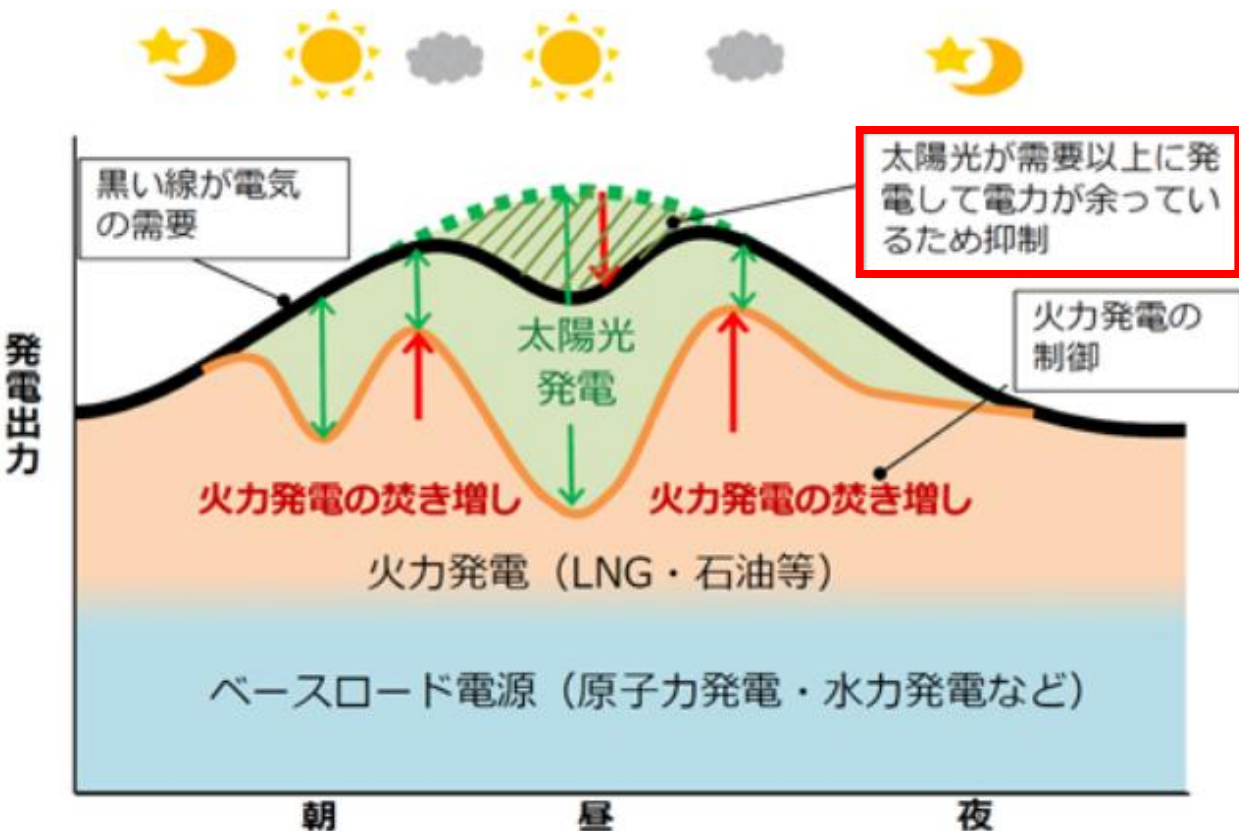
～再エネ先進地・五島で挑む、エネルギーコスト域内循環への道～

## 【本プロジェクトの「問い」】

「どうすれば市民は、再エネが余る時間帯に電気を使ってくれるのか？」を実社会で検証します

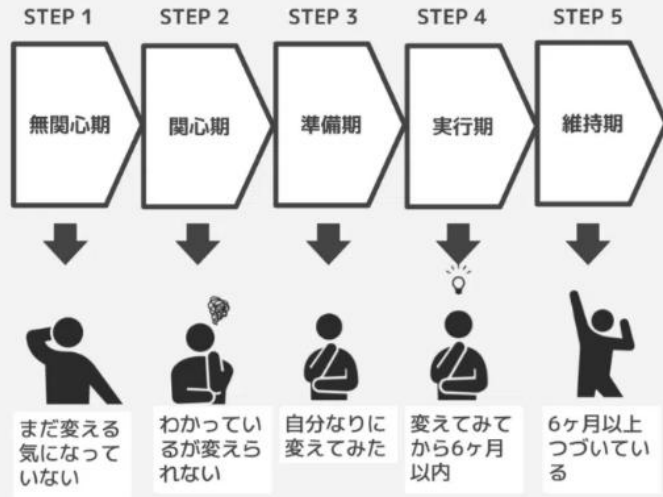
### 社会実験の目的

- 再エネ電力を地域で最大限活用するため、市民の「電力利用行動の変化（行動変容）」を促すメカニズムを検証する
- 五島市の地域課題解決を目的とした「政策モデルの検証」として実施



### 行動変容（変化ステージ）モデル

短くてよいので声をかけ、患者の価値観や生活環境を知ることにつとめる



### 目指す姿

- 「再エネを増やす地域」から「再エネを活かす地域」への転換
- 再エネ100%地域モデルの構築

# 五島市の消費電力100%再生可能エネルギー化を目指す

～再エネ先進地・五島で挑む、エネルギーコスト域内循環への道～

## 【社会実験の介入手法：行動変容を促す3つの仕掛け】

経済的ナッジ（行動の後押し）とデータの可視化を用いて、実際の社会で介入実験を行います

### ごとうの電気RE100



12～13時の  
電力量料金が0円！



### ① ダイナミックプライシング（昼0円）の導入

- ・ 昼12時～13時の電気料金を「0円」に設定
- ・ 再エネが豊富な時間帯への需要シフトがどれだけ起きるか検証

### ② HEMSによるデータ取得と可視化

- ・ キャンペーン参加世帯へHEMSを貸与
- ・ 電力使用量の見える化が行動に与える影響の測定
- ・ 詳細な電力利用データの取得

### ③ 新たな電力メニューの開発（介入パターンの設計）

- ・ 家庭向け、EV向け、住宅エネルギー向け、地域産業向けなど、多様なターゲットに対する有効なアプローチを検討

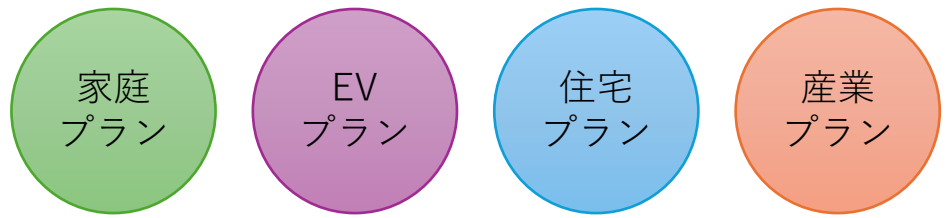


図. 過去1年間のLNGスポット市場価格



図. 2026/3/14のJEPXスポット市場（九州）の価格

九州は豊富な再生可能エネルギーの影響で昼間の卸価格は0円

12-13時の五島産再生可能エネルギーを無料で提供

# 五島市の消費電力100%再生可能エネルギー化を目指す

～再エネ先進地・五島で挑む、エネルギーコスト域内循環への道～

## 【実証フィールド：富江地区と五島市民電力】

シミュレーションではなく、2,200世帯の「生きたコミュニティ」と「リアルなデータ」を提供します

### 実証フィールド「富江地区」

- 人口約3,900人、約2,200世帯（目標）
- コミュニティ全世帯規模での参加
- 単なる数世帯のテストではなく、「地域社会全体」でのシステム検証が可能

### 強固な「官民連携」の実行体制

#### ① 五島市民電力との公式協定（5年間）

- 「脱炭素地域づくり及び再生可能エネルギー電気の普及促進に関する協定」を締結
- 五島市民電力と連携し、大学等の「実証的取組への協力」を明記

#### ② 安定したデータ取得基盤

- 社会実験の要となる「五島市HEMS導入・再エネ電力促進業務」を、五島市民電力(株)へ令和7年度・8年度と継続委託
- 数年単位での安定したデータ提供と施策の実行

#### ③ 五島市民電力の役割（社会実験のインフラ）

- ダイナミックプライシングや新メニューなど、研究に基づく介入施策を実際のサービスとして社会実装するプラットフォームとして機能



# 五島市の消費電力100%再生可能エネルギー化を目指す

～再エネ先進地・五島で挑む、エネルギーコスト域内循環への道～

【社会実験のゴール：五島モデルを、日本のスタンダードへ】

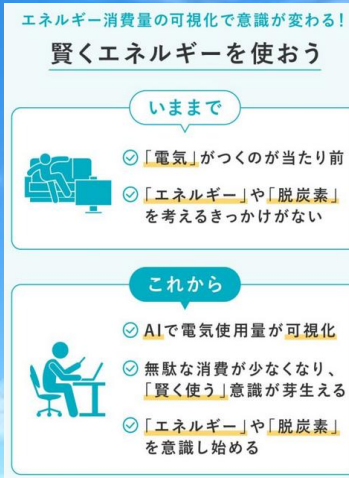
この社会実験の成果は、再エネ大量導入時代を迎える日本全国の「未来の処方箋」になります

## 期待される成果

- 市民の行動変容メカニズムの解明と、出力制御の抑制
- 再エネ電力の地域内利用拡大と、再エネ100%地域モデルの確立

## 本事業の最大の意義

- この社会実験で得られた知見を、地域エネルギー運用モデルとして、日本全国の自治体へ展開可能な「政策モデル」として提示すること



日本最先端のフィールドで、社会を動かす  
実践的な研究を共に進めましょう！

# 五島市の消費電力100%再生可能エネルギー化を目指す

～再エネ先進地・五島で挑む、エネルギーコスト域内循環への道～



## スケジュール（イメージ）

- 6月 東京訪問 + Web会議：市の戦略、事業内容のレクチャー
- 7月 Web会議：学生による先行事例分析、調査仮説の立案
- 8月 現地活動（1回目）：課題の解像度向上と市民インサイトの発見（関係事業者ヒアリング、再生可能エネルギーを利用する住民へのデプスインタビュー等）
- 9月 Web会議：収集情報の分析、普及戦略の複数シナリオ作成（市・関係事業者とのオンライン壁打ちミーティング）
- 10月 現地活動（2回目）：戦略プロトタイプ of 市民検証（考案したコミュニケーション戦略（メッセージ・ツール案等）を提示し、市民の反応を確かめるワークショップの開催）
- 1月 Web会議：収集情報の分析、普及戦略の複数シナリオ作成（市・関係事業者とのオンライン壁打ちミーティング）
- 2月 現地報告会：未来へのロードマップ提案（五島市に、「再エネ100%」普及へのロードマップを提出）

## 学生の皆さんに期待すること

- 個人へのアプローチにとどまらず、自治会・学校・企業などの地域コミュニティを巻き込み、集合的な行動変容を促す社会的な仕組み（仕掛け）をデザインしていただきたいと考えています。
- そのために、学生の皆さんには地域の現場に入り、行政・事業者・市民と対話を重ねながら、「地域とともに学び、共に考え、共に形にする」取組を実践していただくことを期待しています。
- **エネルギーコストを地域内で循環させるという最終目標を達成するためには、最も重要なピースである「全市民の行動変容」が不可欠であり、既存の常識に捉われない東京大学の皆様の知性と情熱に期待します。**

# 鎮山親水プロジェクト

～森と水を未来へつなぐ挑戦～



熊本県山江村

# 山江村の概要

- 平成元年に開通した九州自動車道が南北に縦断しており、熊本市内から車で約1時間、隣接する人吉市の中心部からは車で約10分と交通の便に恵まれています。
- 人口：3,092人（男：1,450人・女：1,642人）令和8年2月末現在
- 世帯数：1,187世帯
- 高齢化率：38.65%
- 年少人口率：13.65%
- 面積：121.19km<sup>2</sup>（約90%が山林）
- 集落数：16区67集落
- 産業別人口
  - 第一次産業 288人（17.7%）
    - 高齢化率（農業）：68.4%
    - 農地面積：6.30km<sup>2</sup>
  - 第二次産業 393人（24.1%）
  - 第三次産業 950人（58.3%）
- 基幹産業は農林業（主な特産品：栗・米）

「やまえ栗」が特産品。栗まつりの開催や栗の日の制定など、栗が村のアイデンティティとなっている。栗の出荷量は410トン（昭和62年）に達して最盛期を迎えたが、現在は高齢化、担い手不足、環境変化により生産量約91.0トンに減少。

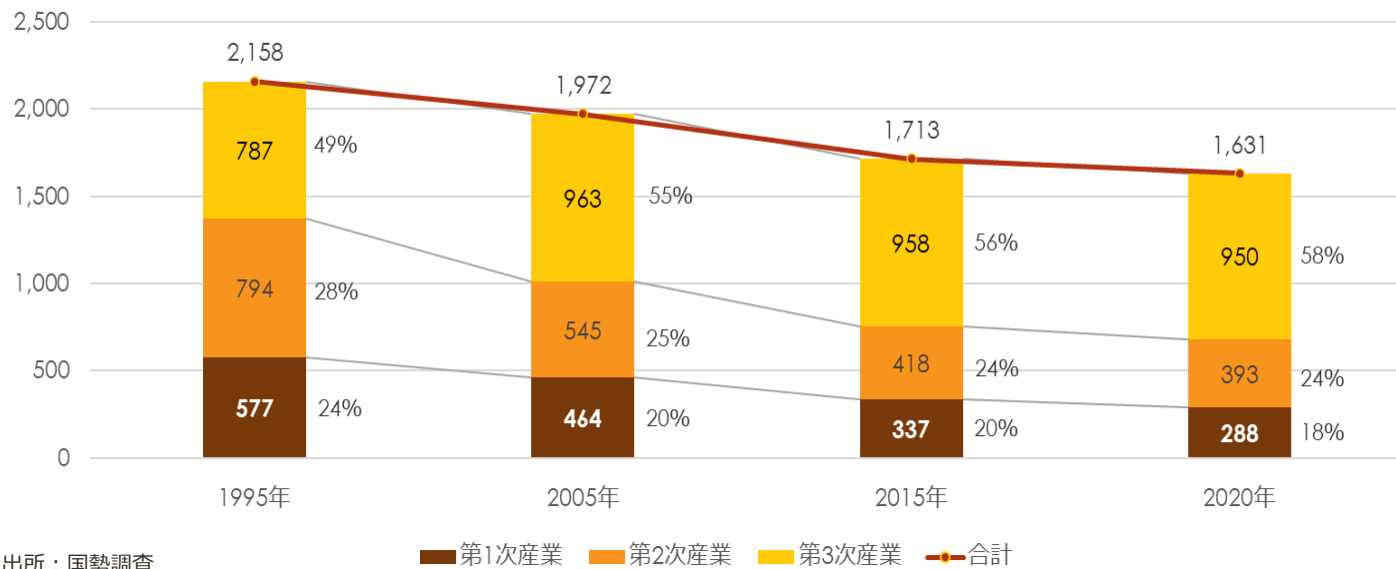
令和6年3月に地理的表示保護制度(GI)登録



総人口の減少に伴い、山江村の**林業従事者が減少**しており、山林を保全するための人材が不足している。山林に関わる**従事者の不足が山林の荒廃を招く**。

[人]

産業三分類就業者数



- ・山江村の第一次産業の従事者数は**20年前の半分近くに減少**
- ・**低賃金などを原因**に、新規就労者が減少し、高齢化と共に従事者は減少

- ・人工林の保全には人による適切な働きかけが必要
- ・**担い手不足により、森林の維持が困難に**

## 現在

- 壊された川
- 見向かない山
- 希薄化したコミュニティ

令和2年7月  
豪雨災害発生



※被災状況(万江川、宇那川)、ワークショップ

## 「地域住民の声」

### 基本理念

# 鎮山親水 (ちんさんしんすい)

自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直すことを表した山江村復興事業の基本理念

### 未来像

- ◆ 山を守り、川と山との共存
- ◆ 災害に強く  
自己治癒力の高い村づくり
- ◆ 自治コミュニケーションの再構築
- ◆ 復興による地方創生の実現

# 林業振興施策一覧

- ①山を守る人材育成
- ②環境保全型林業の実践
- ③森林環境譲与税を活用した民有林の整備
- ④有害鳥獣の被害対策
- ⑤自然に親しむ環境づくり
- ⑥脱炭素・循環型社会の推進
- ⑦自然環境保全の推進



上流域：大川内

治山施設から溢れる土砂

植樹活動の様子



## (目的)

山江村・村民・地域企業・関係団体が協働で、自然災害に強い森を育て持続可能な林業を通じて地域社会を豊かにし「鎮山親水」の考えを実践する目的。

## (内容)

- 市場で林業事業者がしっかりと利益を生み出せる「儲かるシステムづくり」を構築
- 「球磨ひのき」のブランド化による付加価値向上
- 「やまえ栗」を使用したレシピ作成・商品開発・販売の実現

## (効果)

- 林業の担い手不足を解消する
- 森林・環境保全の魅力を広く発信する
- 新商品を五月祭や駒場祭での出店・販売

特別市の様子

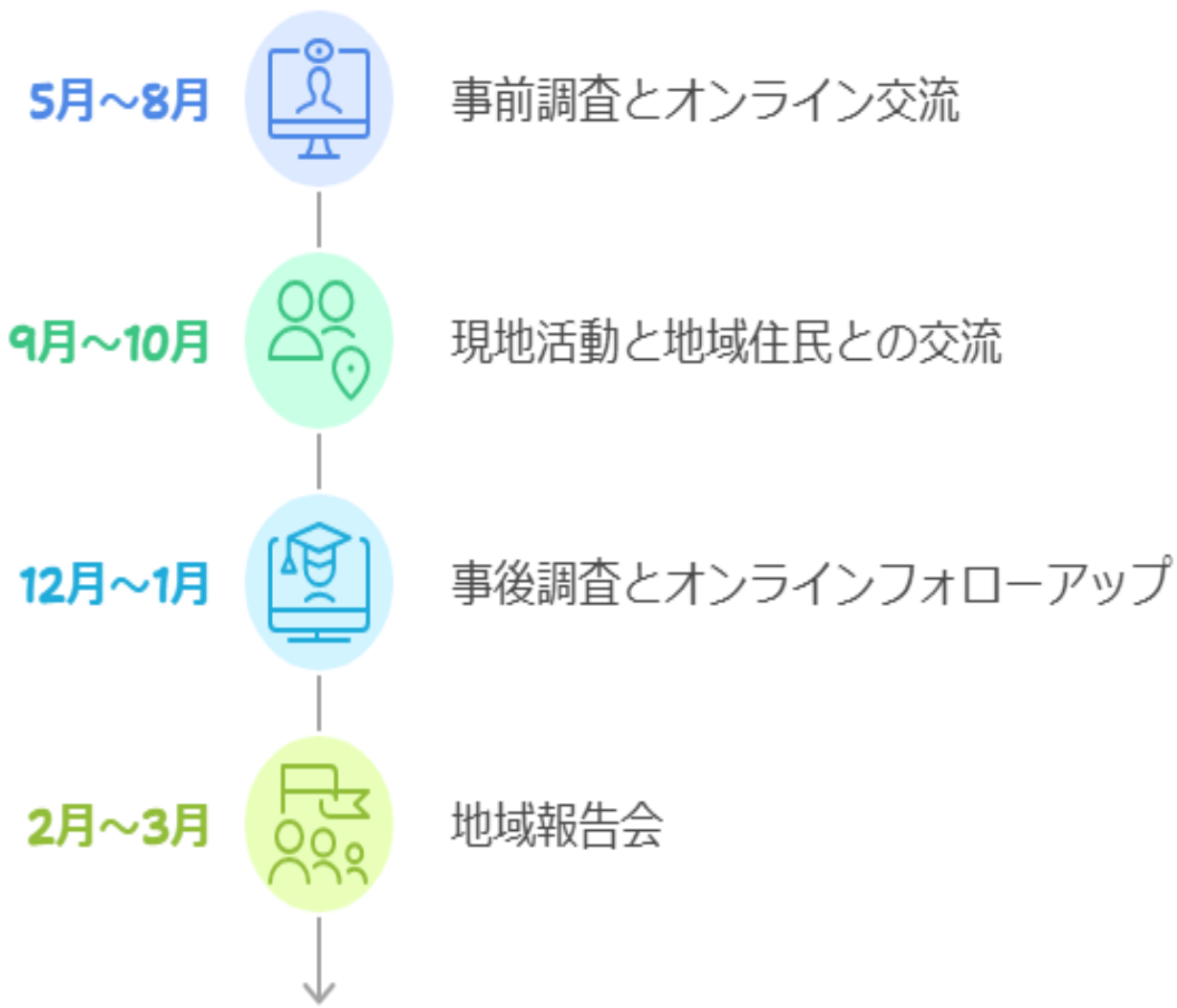


球磨地域のスギ・ヒノキ  
ブランド化をさらに推進しようと企画  
スギ・ヒノキの特別市開催

試作品（シュークリーム）



# 地域参加のためのプロジェクトタイムライン



## ■背景と課題

令和7年に「千年の森づくり構想」を立て事業に取り組んでいる。現在は伐採から市場での販売までを行っているが、今後は林業事業者がしっかりと利益を上げられる「儲かるシステムづくり」を構築していくことが、林業の担い手不足を解消するためにも不可欠となる。更に「球磨ひのき」のブランド化による付加価値向上などを通じて、森林・環境保全に興味のある方々へ林業の魅力を広く発信していきたいと考える。

また、令和7年度に取り組んだ、本村の特産品である「やまえ栗」を使ったレシピ作成・商品開発・販売の実現に向けて継続した活動を希望する。

## ■学生の皆さんに期待すること

- 現地調査では、地域住民や森林関係者、クラブ及び行政と連携し積極的な意見交換を行う
- 多くの関係者を巻き込み、見たこと感じたことを率直な意見として伝えてほしい
- FS終了後も山江村との継続的な関係を築いてほしい

『かちやあクエスト 第2弾』

熊本県球磨郡

あさぎり町

子育て移住体験  
ツアープランの構築

地域おこし協力隊 櫻井 慎也

# あさぎり町ってどんなところ？

- ◆ 熊本県の南部  
人口約1万4000人の町
- ◆ 人吉球磨盆地の中央部  
町の中央には球磨川が流れてる
- ◆ 主幹産業は農業  
たばこ、薬草の生産地
- ◆ 約20年前に5町村が合併  
朝の霧が深いことから「あさぎり町」
- ◆ 11月～2月にかけて雲海が見れる日もある



# 「かちやあクエスト」とあさぎり町の課題

---

「かちやあ」とは

球磨地方の方言で「助け合い」の意味  
学生と地域住民で助け合いながらツアーを作る

あさぎり町の課題

認知度不足  
地域資源の認識不足

# 「かちゃあクエスト」の目的

『関係人口や子育て世代の移住希望者を増やす』

「あさぎり町」を

知らない

知っている

興味がある・行きたい

行ったことがある

もう一度行きたい

好きになる

住んでみたい

移住を検討する

移住する

認知度の壁

魅力・訴求力の壁

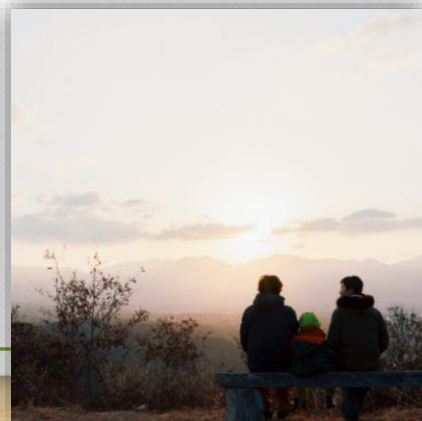
親子移住体験ツアーで  
認知度を高め人を呼び込む

# 2025年度 東大FSの取り組み



ターゲットを20代～40代の親子向けに設定

東大生に「あさぎり町の地域資源」を中心としたコンテンツを精査して頂き  
4泊5日の「親子お試し移住体験ツアー」を構築



# 東京大学の学生に求めること

---

- ①「親子お試し移住体験ツアー」のブラッシュアップ
- ②親子お試し移住体験ツアーの集客&アテンド
- ③地域住民と「あさぎり町の活性化」に向けた意見交換

**【こんな方に来て頂きたい！】**

★主体となって集客を行える方

★あさぎり町民になりきってツアーアテンドを行える方

★「感性」を大切にし、「当たり前」の中から「価値」を見つけ出せる方

## FS日程（予定）

---

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 6月下旬    | オンラインミーティング                |
| 8月～9月   | 現地活動（現地視察、体験、地元民との交流・意見交換） |
| 11月～12月 | 現地活動（ツアーアテンド）              |
| 1月～2月   | オンラインミーティング                |
| 3月      | 現地報告会                      |

ご清聴ありがとうございました



# 理想の山間生活と現実の ミスマッチを解消する

— 世界農業遺産の村で、移住者の夢と  
暮らしを守る新しい支援の形 —

宮崎県諸塚村 企画創生課



# 世界が認めた農林業の村、直面する「人口減少」の壁



## 世界農業遺産

「山間地農林業複合システム」認定

## FSC®森林認証

日本初・村ぐるみで取得。  
環境と経済を両立させた先進的モデル



## 存続の危機

深刻な人口減少と少子高齢化

## 急務のミッション

豊かな山を次世代へ繋ぐための  
「関係人口」創出と「移住者」の受け入れ

# 問い 「山で暮らしたい」という思いを、どう形にするか？

## 移住希望者の「理想」

「自分の土地で、農業や林業をして暮らしたい」



## 諸塚村の「現実」

農地・一軒家の不足。安定優先で「一般企業就労」「村営住宅」を勧めざるを得ない。



## 新しい移住者受入モデルの構築（FS生へのミッション）

このギャップを埋めるため、以下の「移住プラン」を共にデザインする



1. 小さく始める農林業  
(自分の土地がなくても携われる仕組み)



2. 半農半X  
(別の仕事と組み合わせる働き方)



3. 空き家や農地の効果的なマッチングモデル

# 4つのステップで、 新しい受入モデルをデザインする



## STEP 1: 生活ヒアリング

移住者・Uターン者の  
「暮らしの実態と本音」を深く探る。



## STEP 2: コミュニティ理解

地区行事や共同作業  
に飛び込み、地域の  
構造を肌で感じる。



## STEP 3: インフラ調査

空き家や農地の現状  
を自らの目で確かめ  
、  
マッチングの可能性  
を探る。



## STEP 4: 支援案の策定

調査内容を統合し、  
「農林業+α」で豊  
かに暮らすための支  
援施策を提案する。

# 活動のフィールドとスケジュール



滞在拠点「森の古民家」など



6-7月

▼  
事前学習と  
ヒアリング  
(オンライン)

8-9月:現地活動①

▼  
現地調査・行事参加で  
村の暮らしを知る

10-12月

▼  
データ分析  
課題の構造化

1-2月:現地活動②

▼  
追加調査・支援案の  
ブラッシュアップ

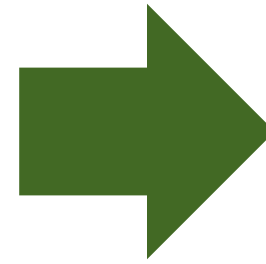
2-3月:最終報告

▼  
現地報告会  
村役場・住民へ最終  
プレゼン  
→

# 専門知識よりも「真摯な問いかけ」が地域を変える



都会的・大規模な農業の発想



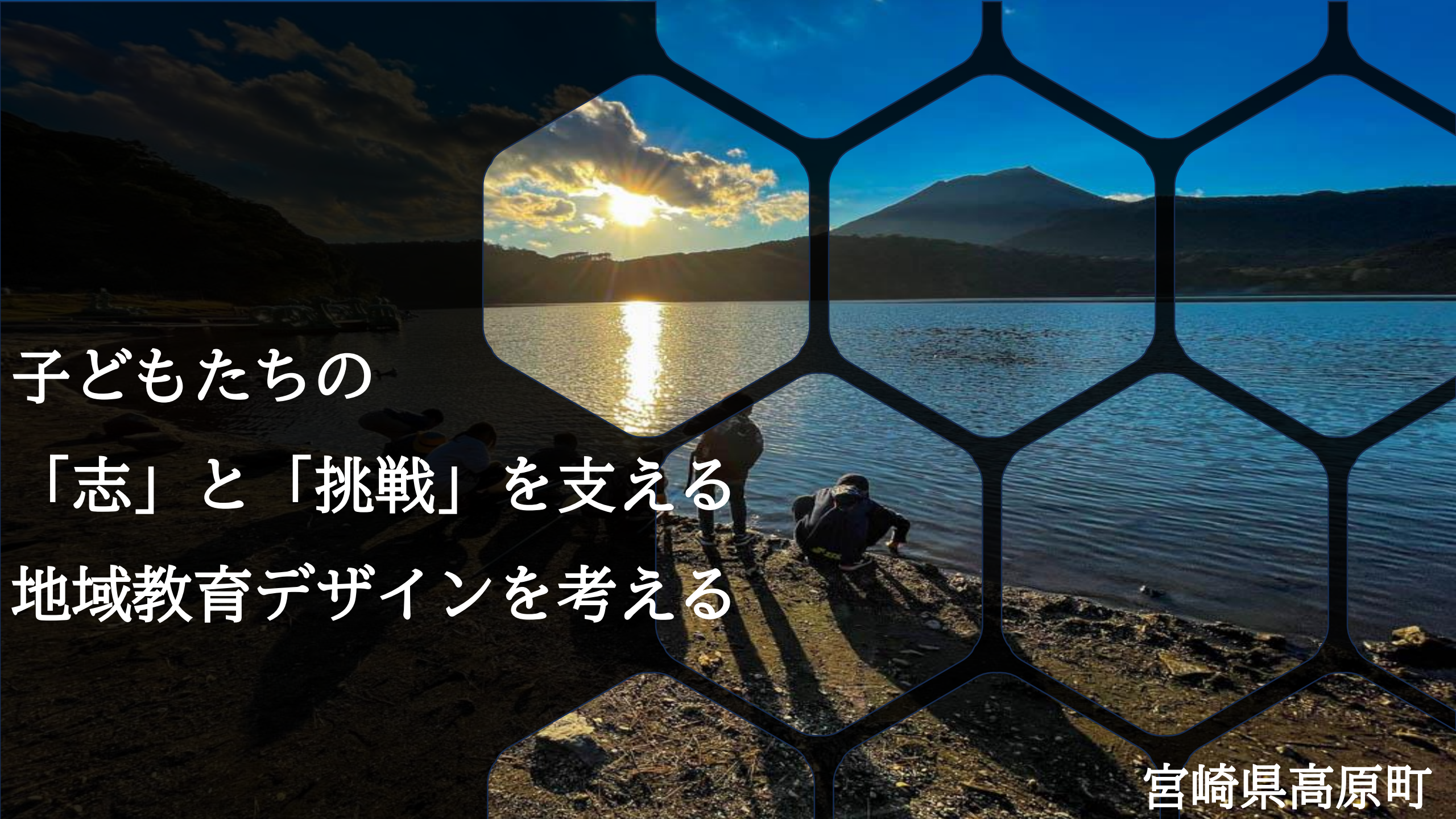
村の「小さな資源(シイタケ/お茶/畜産等)」  
を組み合わせる豊かな暮らし

学生の  
「素朴な疑問・  
真摯な問い」



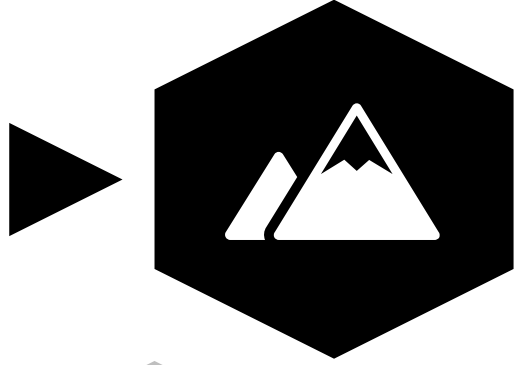
住民の  
「自らの生活の再発  
見  
・新たな気づき」

諸塚村で、誰かの一生の暮らしを支える仕組みを一緒に作りましょう！



子どもたちの  
「志」と「挑戦」を支える  
地域教育デザインを考える

宮崎県高原町

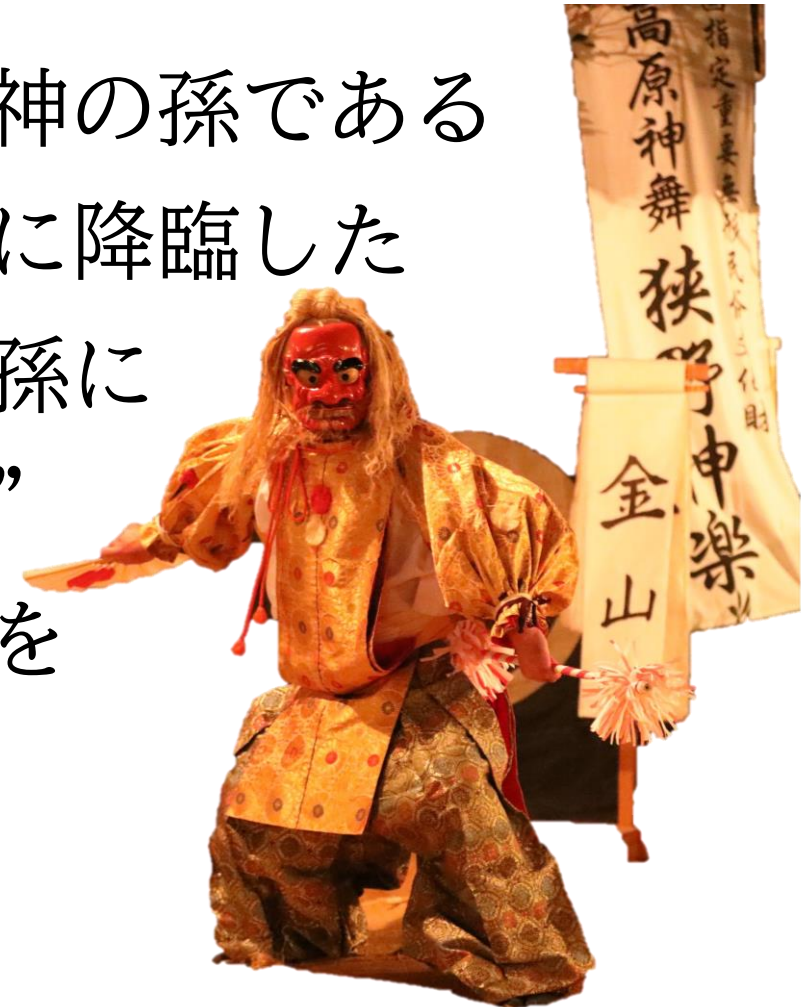


天孫降臨から続く初代天皇「神武天皇」ご生誕

“日本発祥の地”

日本神話の最高神である天照大神の孫である瓊瓊杵尊が地上を平定するために降臨した高千穂峰の麓に位置し、その曾孫にあたる狭野尊が後の“神武天皇”となり、初代天皇として日本国を平定したその始まりの地。

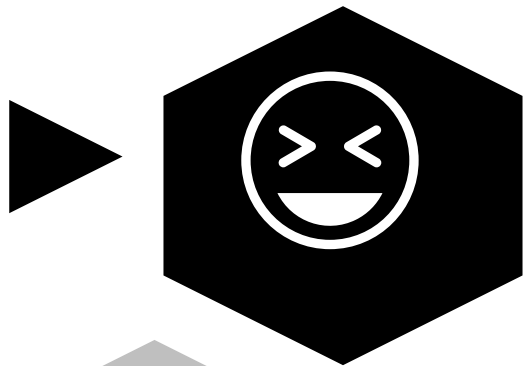
高天原→高原



# まずは楽しむこと

学生の皆さんが高原町を“知り”、“遊び”、“楽しむ”ことが一つの地域課題を解決することに繋がります。過度なコミットではなく、気楽なコミットで構いません。

あなたが高原町での経験、体験を楽しんでください。



# “知” と “経験” を与える

高原町の子供たちは、世の中が様々な可能性にあふれていることを体感的に知りません。

東京大学を目指した自分、東京大学で学ぶ自分の知や経験、きっかけを子供たちに伝えてほしいと思っています。

地方から広く大きく羽ばたくための1歩とする子供たちがいると思います。



# 最後に

高原町は、皆さんのような若い世代に様々な意見をお聞きしたいと思っています。地域課題の解決ももちろんですが、高原町に来てくださった皆さんがもう一度高原に行ってもいいかなと思えるために何が足りないのかをお聞きしたいと思っています。子どもたちにとっても刺激的で感性に問いかけるフィールドワークにしていきたいと思います。



宮崎 ゆうな (モデル)



2026年度 フィールドスタディ型政策協働プログラム

＼ ムーブメントを起こす仲間募集中 ／

# ワクワクする商店街づくり 未来成長戦略への取り組み



鹿児島県いちき串木野市

# いちき串木野市の概要

いちき串木野市は、東シナ海に面した豊かな自然と歴史、文化に恵まれた地域です。

豊富な特産品による「食のまち」としての魅力を備えています。



平成17年 いちき串木野市誕生

人口 25,548人(R7.6月現在)

面積 112.30km<sup>2</sup>

マグロ船隻数 17隻



いちき串木野市公式キャラクター  
いちくっしー



# 商店街の現状と課題

後継者不足による  
空き店舗の増加

店舗の閉店による  
空き地率の悪化

大型店舗の利便  
性による商店街へ  
の集客力の低下

人口減少や若年  
層のオンライン  
ショッピング普及  
による商店街の  
魅力の低下

人口減少に伴う消  
費者の減少、売上  
やまちの賑わい・  
地域経済の縮小



# 商店街活性化の取り組み

## これまでの取り組み

空き店舗への出店、  
新規創業者への補助金支援

特色のある店舗出店や  
通り会による花壇の整備



## これからの取り組み

チャレンジショップ事業  
による空き店舗の解消

通り会を中心とした 持続性のある店舗  
まちのにぎわい創 の仕組みづくり  
出のための定期的  
な協議

キャッシュレスによる  
新たな顧客の獲得

定期的なイベントによる  
誘客の推進

# 皆さんと一緒に取り組みたい事

## 商店街の現状を掘り下げよう

商店街やイベントの現状を知り、課題解決に向けて意見を聞きたい。

## 商店街の魅力を発信しよう

店舗や商工会議所との意見交換会、市内高校生との意見交換会で商店街の魅力発信策を提案してほしい。

## 商店街のあり方の提案

「魅力ある・行きたくなる・楽しめる」商店街のあり方についてアイデアを提案してほしい。



# 事業スケジュール

|     |              |                          |
|-----|--------------|--------------------------|
| 6月  | オンラインミーティング① | 活動計画等の打合せ                |
| 7月  | オンラインミーティング② | 地元高校生および関係者等との交流会        |
| 8月  | 現地活動①        | 現地視察および地元関係者等との意見交換会     |
| 10月 | オンラインミーティング③ | 意見交換会                    |
| 11月 | 現地活動②        | 課題解決案の提案および地元関係者等との意見交換会 |
| 2月  | 現地での報告会      |                          |

海と山、歴史と未来が織りなすまち、  
いちき串木野市で心おどる活動を一緒にしませんか。



2026東大FSプログラム

課題名

# 「小規模離島におけるコト消費プログラムの提案」

三島村・硫黄島  
(鹿児島県)

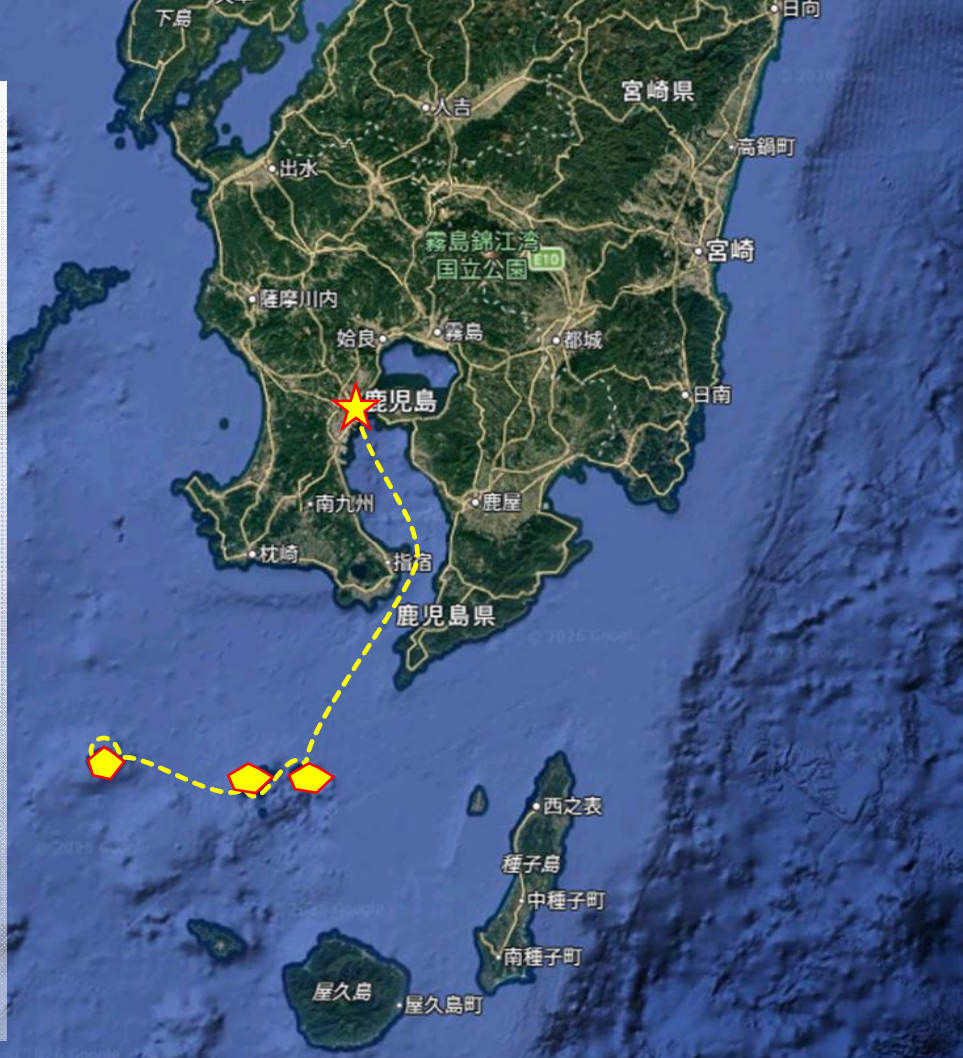
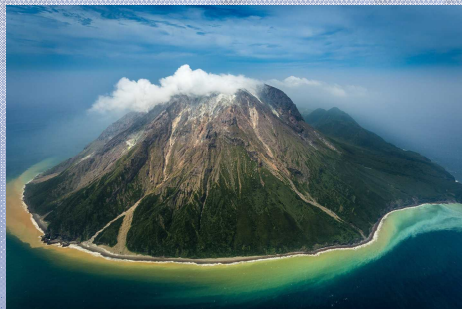


## 【三島村】

- 鹿児島本土～南西諸島への最初の離島  
▶本土南端の枕崎から、天気が良いと見える
- 3つの島で三島村(竹島・硫黄島・黒島)
- 役場本庁及び職員は鹿児島市在住

## 【硫黄島・東京からのアクセス】

- 東京から鹿児島、市内で一泊
- 鹿児島港からフェリーで約4時間
- 船は週4便



# 三島村・硫黄島の特徴、背景

## 特徴

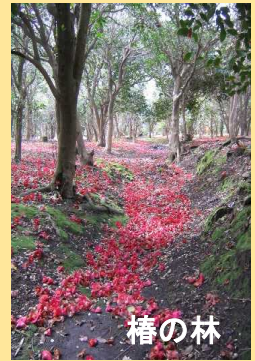
### 【三島村】

- ▶ 人口約360人 …鹿児島県で最も小さい自治体
- ▶ 域内経済・産業は島単体では成立しない
  - …とはいえ、現状なんとか成り立っている「しごと」は、
    - ▶ 畜産業、民宿業、デザイナー、講師業など
- ▶ 離島ならではの守り伝えられた自然、文化、暮らしが残っている。
  - …ジオパーク、ユネスコ無形文化遺産など



### 【硫黄島】 人口約120人

- ▶ かつては硫黄が採掘された火山島
- ▶ 3島では最も観光向けだが…



## 背景・課題

移住促進の大前提、島で成り立つ「しごと」の形態とは？  
→外貨を稼ぐ産業が必要なのでは？

# 東大FSプログラムにおける目標

## 目標

島だからこそ、限られた資源を活用した持続可能な「外貨を稼ぐ」仕組み作り

## 方法

今回は**観光業**、**教育業**を想定し、それに取り組む住民と一緒に、以下の活動を通じて「**コト消費**」プログラム作りに必要なプロセスを考えます。

## 取り組み内容

### 【考えること】

- ①人を呼ぶ為の方法、コンテンツは何？
  - ②③島内でサービスを提供する人は誰？その人の環境は？
  - ④サービス内容、金額設定、収益性、継続性は？ などなど
- 島で実際に取り組んでいるカウンターパートと一緒に考えます。

### 【アウトプット】

「〇〇さんは、△△をすれば□□が実現できます」というプランを提案するのがゴールです。

# 東大生の皆さんと一緒に考えたい事

## ①コンテンツ収集

ギモン

島外の人にとって強力な来島動機となる物とは？

手法

現地調査を通じて、まずは島の魅力を発掘します。どんな人にどんなコンテンツが響くのか調査します。

- ▶フィールド調査
- ▶ベンチマーク調査

## ②マネタイズ

コンテンツ資源を正しく貨幣価値に交換する方法は？

島外の目線で、価値のあるものをピックアップし、付加価値の高くなる提供方法（いわゆる「商品」）を考えます。設定ターゲットに合わせた商品開発が必要です。

- ▶ターゲット設定
- ▶アクティビティ開発

## ③プロモーション

情報を正しいところに適切に伝えるには？

ターゲットや商品に応じたプロモーション方法を調査、検証します。カスタマージャーニーマップなどのフレームワークを活用し、どの段階でどのようなアクションが必要なのか点検します。

- ▶フレームワーク
- ▶フィールド実証調査

## 現地活動 について

カウンターパート

大岩根 尚

地質学・海洋地質学を専攻し、東京大学にて博士号(環境学)を取得。

南極観測隊を経て三島村職員としてジオパーク認定に携わり、認定後退職し三島村の硫黄島へ移住。



## 活動内容

県内外の自治体等と連携した、地域脱炭素戦略の策定やユース世代向けフィールド型学習ツアー等の企画・コーディネート・ファシリテーションなど。

硫黄島では、宿泊施設の経営、トレッキング/カヤックなどアクティビティのガイドやリトリート、レンタカー及びレンタサイクル事業を展開し、来島者の受入体制の整備に取り組んでいる。

## コメント

持続可能な社会のあり方とはどういうものなのか。これからの文明はどうあるべきなのか。そういう問いを持ちながら、自分なりの人生実験を続けています。家族や島の方々との楽しい時間をとりながら、この幸せをどう繋ぎ広げてゆけるか、一緒に考えていただきたいです。

# 事業スケジュール

## 案①

現地活動を夏休み期間に納めるパターン

### ①オンラインミーティング

地域概要・課題ヒアリング、学生の希望ヒアリング

### ②現地活動

コンテンツ収集、体験、意見交換

### ③オンラインミーティング

課題すり合わせ、事例収集、仮提案

### ④現地活動

提案内容の点検や実証、追加ヒアリング等

### ⑤オンライン報告会

## 案②

期間を開けて、提案準備に時間をかけるパターン

6～7月

8月

9～10月

11月

12～1月

6～7月

8月上旬

8～9月

9月下旬

11～1月